

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

資料1-1

| | | | | | | |
|---------|---------------------------------------|---|---|---|---|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (1) | 協働意識の醸成 | | | | |
| 施策の目的 | 協働に関する市民意識の高揚を図るために事業を行い、市民の協働意識を醸成する | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 1 | 協働シンポジウム・フォーラム開催事業 | 28 | 29 | | |
| D 実績 | 事業内容 | 協働の理念や手法について広く一般市民に周知するためのシンポジウム・フォーラムを開催する | | | | |
| | | 実績無し | 「わくわく交流会」にて市民活動補助金交付事業の発表内容をもとに、「市民活動と協働」について考える機会を設けた。 | 「わくわく交流会」にて市民活動補助金交付事業の発表内容をもとに、「活動成果をあげるために、みんなでできること」について考える機会を設けた。 | 町内公民館関係者及び市民活動団体を対象に、「あんじょう協働のまちづくりフォーラム」を開催し、町内会等の地縁組織と市民活動団体が協働して課題解決に向けて取り組む必要性や効果について、先進事例の発表も交えて考える機会を設けた。 | 市民活動補助金成果報告会において、市民協働を推進するために市が実施する取り組みについて、参加者に報告するとともに、参加者(活動している者)の視点で、成果やこれからの課題について考えるワークショップを行う機会を設けた。 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|--------|---|---|
| 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> 28年度に実施した市民向けアンケート調査の結果によると、協働という言葉の認知度が、23年度に実施したものに比べ19.9%上昇しており、少しずつではあるが、協働の理念等について市民への周知が進んでいる。 28年度に実施したフォーラムでは、地域の協働事例を当事者に語っていただき、参加者に対して効果的に周知をする事ができた。 | |
| 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動補助金成果報告会の機会を活用して、実施できた。 町内会、市民活動団体関係者に対して、市内で行われている協働の先進事例を紹介し、市民協働について考える機会が提供できた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会や市民活動団体関係者だけでなく、広く一般市民が参加した形で開催ができなかったこと。(開催の周知は行っていたが、結果として市民の参加者が少なかった。) | |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> 達成:(施策自体の達成) <ul style="list-style-type: none"> A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ・周知に関しては、交流センターの自主事業や市が行う事業の機会をとらえて、継続的に取り組みを実施していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|---------------------------------------|--|--|---|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (1) | 協働意識の醸成 | | |
| 施策の目的 | 協働に関する市民意識の高揚を図るために事業を行い、市民の協働意識を醸成する | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 2 | 「市民協働出前講座」事業 | | |
| | 事業内容 | 指針や市民協働推進計画について、広く市民に周知・啓発するため、各地域に出向き「出前講座」を開催する。 | | |
| D 実績 | 3回実施(参加者27名) | 2回実施(参加者21名) | まちかど講座「はじめよう市民活動」を計3回開催し、32名が受講した(ヘルスマイト養成講座受講生)、愛知学泉大学家政学部2年生22名) | まちかど講座「はじめよう市民活動」を計2回開催し、8名が受講した(ヘルスマイト養成講座受講生)、市民交流センター自主事業「安城市で活躍する人たちの交流会」にて、市民協働推進計画の啓発を実施した。また、第2次計画策定に関するワークショップにおいて、現計画の内容及びこれまでの取組状況について説明した。 |
| | | | | まちかど講座「はじめよう市民活動」を計2回開催し、8名が受講した(ヘルスマイト養成講座受講生)、市民活動補助金成果報告会において、第1次市民協働推進計画において、取り組んできたことを報告し、参加者に評価してもらう機会を設けた。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-----------------|--|
| C 中間総評 | ・主にヘルスマイト養成講座受講生に向けて、まちかど講座「はじめよう市民活動」を実施した。 ・市民交流センター自主事業の中で、市民協働推進計画の話ができる機会を設け、今までとは異なる市民への啓発が実施できた。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・まちかど講座は継続して開催できた。 ・H27年度において、愛知学泉大学の学生に向けて啓発が実施できた。 ・交流センター自主事業や市の事業の中で周知を行うことができた。 【実施できなかったこと】 ・まちかど講座については、ほとんどがヘルスマイト養成講座受講生向けに行った実績しかなく、広く周知、啓発が実施できたとは言い難い部分もある。 |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |
| B | |
| A 事業の今後の取組方針 | ・まちかど講座 자체は継続していくが、広く多くの市民に利用していただけるよう、交流センターのFacebookなどを活用して周知を行う。 ・まちかど講座だけにこだわらず、市の事業や交流センターの自主事業の機会を通じて、第2次計画の周知を行う。 |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|---------------------------------------|--|--|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (1) | 協働意識の醸成 | | |
| 施策の目的 | 協働に関する市民意識の高揚を図るために事業を行い、市民の協働意識を醸成する | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 3 | 「協働事業事例集」発行事業 | 28 | 29 |
| D 実績 | | 市内における市民活動及び協働に関する身近な協働事例を整理し発行することで、「協働」をわかりやすく市民に周知する。 | | |
| | | 「あんねっと」と協働で8事業を取材。編集の後、協働ハンドブック「コネクトvol.1」として発行。 | 「コネクトvol.1」を、市民が参加する講座やセミナーなどに積極的に提供するとともに、市内各施設に設置し、市民団体向けにも配布した。 | ユースカレッジ受講生(20名)、29年度新規採用予定者(43名)、まちづくり人養成講座受講生(29名)に対してコネクトを配布し、協働について講義を行った。 ユースカレッジ受講生(19人)及び28年度市役所新規採用予定者(64人)に対して配布し、協働について講義を行った。 |
| | | | | また、福祉まつり等人が多く集まる場所で、コネクトを配布し、協働の啓発を行った。 9月～1月にかけて実施したまちづくり人養成講座(中級編)では、受講生に実際の協働事例を取材していただき、協働事例のデータをとりまとめた。 |
| | | | | H28年度に取りまとめた協働事例のデータを基に、協働サポートークラブとともに「コネクトVOL.2」を作成した。 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度にあんねottoと協働で協働事業事例集「コネクトvol.1」を作成した。 以降はユースカレッジ受講生や市役所の新規採用予定者に配布し、協働について講義を実施することができた。 福祉まつり等人が多数集まるイベントにコネクトを持込み、協働の周知をすることができた。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> あんねotto及び市民協働サポートークラブと協働して、コネクト1, 2を発行することができた。 各種講座や研修において、コネクトを活用して講義を行うことができた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <p>特になし</p> |
| B 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> 達成:(施策自体の達成) A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | <ul style="list-style-type: none"> 協働事業事例集については、必要に応じて更新していく 出来上がった事例集については、研修だけでなく、様々な機会をとらえて配布するなどを行い、積極的な啓発を実施していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|---|---|---|---|----|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | | | |
| 施策の目的 | | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 4 | 市民活動活性化事業(情報受発信) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 安城市民交流センターにおいて、市民活動情報サイトの管理、メールマガジンや情報誌の発行等により情報の受発信を行う。また、交流センターまつりやわくわく交流会の実施など、人と人を繋ぐ交流によって情報の提供を行う。 | | | | |
| | | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、交流センターまつり:1回、わくわく交流会:1回 | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、交流センターまつり:1回、わくわく交流会:1回、交流センター自主事業での交流会事業:1回(安城市で活躍する人の交流会)、社協主催マッチング交流会への参加 | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、フェイスブックを活用した情報の受発信:随時、交流センター自主事業での交流会事業:2回(安城市で活躍する人の交流会、市民活動交流会2017in安城)、社協主催マッチング交流会への参加 | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、フェイスブックを活用した情報発信:随時、交流センター自主事業での交流会:〇回(安城市で活躍する人たちの交流会、市民活動交流会in安城)、社協主催マッチング交流会への参加 | |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-----------------|---|
| C 中間総評 | ・毎月1回のメールマガジンや3か月に1回の情報誌(わくわく通信)の発行などを継続的に行うことができた。 ・27年度より、団体同士の出会いの場となる交流会事業を市民交流センター自主事業として積極的に実施しており、その中で団体同士のマッチングも生まれつつある状況である。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・毎月のメールマガジン、年4回の情報誌など定期的な情報受発信の取組みを継続できた。 ・H27年度に市民交流センターフェイスブックページを開設し、新たな情報受発信の仕組みを整え、活用できた。 ・交流センター自主事業において、市民活動を行う人同士が交流するための機会を設けることができた。 |
| B 施策の進捗度 | 【実施できなかったこと】 ・フェイスブックページを開設したが、実際に団体の情報を発信する機会は少なかった。これは周知の不足もあるが、登録団体のメンバーの中に、フェイスブックをはじめとしたSNSを利用している人が少なかったのが理由の一つとして考えられる。また、利用の活性化を図るために、効果的な手段を検討、実施していくことができなかった。 |
| A 事業の今後の取組方針 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |
| | B |
| A 事業の今後の取組方針 | ・フェイスブックページについては、利用が活性化するよう、具体的な対策を検討していく。(例:フェイスブック活用に関する講座の継続的開催、市民活動情報サイトや交流センターホームページとのリンクなど) ・交流会事業については、開催後の結果等を広く公開、魅力をPRすることで、参加者増加につながるように検討していく。 |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|---|-----|-------|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | |
| 施策の目的 | | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 5 | 情報共有促進事業(ウェブサイト及びソーシャルメディアの活用) | 28 | 29 |
| D 実績 | | 市民活動に関する情報を市民活動情報サイトに一元化し、ポータルサイトとしての機能の充実を図る。また、情報の出し手・受け手双方から情報交換・共有を促すため、フェイスブックなどのソーシャルメディアを活用する。 | | |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | | |
|-------------|---|---|
| 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体へのICTスキルの向上につながる支援を継続して行うことができた。 平成27年度開設したフェイスブックページを活用して市民活動団体の事業を周知する支援を行い、少しずつではあるが、市民活動情報サイトの利用も増えている。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動情報サイトやフェイスブックページなど、市民活動団体が、自分たちの情報を発信するための環境を整えたこと。 環境整備と並行して、フェイスブック入門講座や市民活動情報サイトの使い方に関する講座など、情報発信のためのツールを有効活用するための講座を開催できたこと。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境は整えたものの、結果として双方の利用は決して活性化しているとは言い難く、利用を活性化させるための取組みが不十分であった。 | |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> 達成:(施策自体の達成) A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | <ul style="list-style-type: none"> 情報サイトやフェイスブックの周知を継続して行うとともに、利用を活性化させるための具体的な取組を検討していく。 社会情勢に合わせて、フェイスブックだけでなく、他のソーシャルメディアの活用も検討していく。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|--|---|---|-------------|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課、生涯学習課、社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | | | |
| 施策の目的 | | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 6 | 情報共有促進事業(団体登録情報共有化) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 市民活動センターや生涯学習ボランティアセンター、青少年の家などで行っている団体登録制度の情報の共有化を図る。 | | | | |
| | | 「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」にて、各機関の担当者と意見交換を行い、登録団体の活動内容の共有に向けて、活動報告書の書式改正を行った。 | 「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」にて、各機関の担当者と意見交換を行い、登録団体の活動内容の共有に向けて、活動報告書の書式改正を行った。 | 社協ボランティアセンターと市民活動センターの団体登録を同時に申請できるよう、登録申請の手続き等の見直しを実施。「関係機関連絡会」では、生涯学習課の講師情報や、社協登録ボランティア団体情報、市民活動団体情報について共有した。 | 登録手続き等の見直しの結果、平成29年3月末時点で、社協ボランティアセンターから市民活動センターへ同時登録の申出があつた団体が22団体あつた。 | H29年度は特になし。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | ・28年度から社会福祉協議会ボランティアセンターと登録手続き等の見直しを実施した結果、社会福祉協議会から新たに市民活動センターへ登録した団体が22団体あり、団体登録情報の共有につながった。 ・27年度には、ボランティア団体情報や市民活動団体情報、講師情報を連絡会の場で共有したことにより、マッチング業務の参考とすることができた。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・団体登録手続きの見直しを行ったことにより、社協ボランティアセンターと市民活動センターにおける団体登録が同時に申請できるようになった。 【実施できなかつたこと】 ・生涯学習ボランティアセンターや青少年の家については、団体登録制度の情報共有にとどまり、同時申請の受付等の具体的な動きができなかつた。 | |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) -A:順調に進捗した -B:概ね順調であったが、改善の余地がある -C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |

| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 文化センター改修がH30年度に完了するため、生涯学習ボランティアセンターや青少年の家とも積極的に情報交換・情報共有を行っていく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|--|---|--|---|---|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | | | |
| 施策の目的 | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 7 | 情報発信強化事業(市広報や各種たよりなど紙媒体の活用) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 「広報あんじょう」において、市民活動団体や協働事例の紹介などを行う市民協働コーナーを設けて、紙媒体による情報発信の強化を図る。 | | | | |
| | | 未実施 | 広報あんじょうではH27.5.15分の特集記事を調整し、「わくわく通信」では8団体紹介した。 | 「わくわく通信」において8団体紹介した。またH27.5.15号の広報あんじょうにおいて、平成26年度市民活動補助金採択団体のうち、4団体の活動を紹介した。 | 「わくわく通信」において8団体紹介した。また、市民活動センター登録団体をリスト化したハンドブックを作成、配布した。 広報あんじょうでは、7月15日に市民協働推進計画の特集及び企画情報課とともに市民活動の啓発に関するチラシを作成し、全戸配布した。 | 3か月に1度の季刊誌「わくわく通信」において、登録団体の紹介コーナーを設けた。 広報あんじょうでは、市民活動補助金の特集記事を作成し、制度をPRするとともに、28年度市民活動補助金採択団体の活動を紹介した。 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | ・広報あんじょうでは、27年度に市民活動補助金交付団体の活動を紹介し、28年度には市民協働推進計画に関する特集記事を掲載した。あわせて企画情報課とともに市民活動を啓発するチラシを作成し、広く情報発信することが出来た。 ・わくわく通信及び市民活動センター登録団体を一覧にまとめたハンドブックを作成し、市民活動団体の紹介を広く行うことが出来た。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・広報あんじょうの特集記事を活用するなどして、市民活動のPRができた。 ・指定管理者の協力により、登録団体をリスト化したハンドブックを作成することができた。 ・企画情報課とともに、市民活動の啓発に関するチラシを作成し、全戸配布できた。 【実施できなかったこと】 ・市民活動のPRはできたと考えるが、協働事例等の紹介はできなかった。（補助金事業を実施すること自体が市と団体との協働であるが、そうしたことのPRもできなかった。） | |
| B 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ・市民活動のPRだけでなく、協働のPRに関して、効果的に実施できる方法を検討していく。広報あんじょうの特集記事については、効果的なPRとなるよう、内容をよく検討する。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|---|---|--|---|----|
| 基本方針 | 1. 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | | |
| 基本施策 | (2) 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | | | | |
| 施策の目的 | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 8 | 市民協働PR事業(集客施設・イベントにおける情報掲示板やPRブースの設置) | | | | |
| | 事業内容 | 七夕まつりなどの集客イベント、商業施設などの集客施設において、市民協働に関する掲示板やPRブースの設置を図る。 | | | | |
| D 実績 | 社会福祉協議会の社協まつり、サンクスフェスティバル、市民交流センターまつりにおいて、あんねつと協働でブースを設置し、PR活動を行った。 | 七夕まつり及び社会福祉協議会の社協まつりにおいて、あんねつと協働でブースを設置し、PR活動を行った。 | 社会福祉協議会の福祉まつりにおいて、市民活動団体「あんねつと」と「あんき会」と行政の3者で協働でブースを設置し、PR活動を行った。 | 福祉まつりにおいて、市民協働サポートクラブとともにブースを設置し、PRを行った。 | 福祉まつりにおいて、市民協働サポートクラブとともにブースを設置し、市民活動補助金等のPRを行った。 | |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-------------|---|---|
| P 中間総評 | ・継続して福祉まつり等の機会でPRを実施した結果、28年度実施した市民向けアンケート調査では、協働という言葉の認知度が23年度に実施したものに比べ19.9%上昇していることから、一定の効果があった。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・福祉まつりなどのイベントで、毎年団体と協力してブースを設け、PRを行うことができた。 【実施できなかったこと】 ・特にないが、より効果的なPRとするためのPR内容やイベントの選定に関しては、今後検討していく必要がある。 | |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |

| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ・引き続き、多くの集客が予想されるイベント等で積極的に啓発していく。 PRする内容については、効果的な啓発となるよう検討する。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|--|-----|-------|
| 基本方針 | ① | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | |
| 施策の目的 | | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 9 | 町内会加入促進事業(町内会への加入促進に向けた啓発)。 | | 28 |
| D 実績 | | 市ウェブサイトなどによる啓発や市窓口での転入手続き時に、町内会への加入を呼びかけるチラシの配布を行う。 | | 29 |



第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| 中間総評 | 各種媒体において、加入促進に向けた呼びかけを実施することができた。(町内会加入率約75%) |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <p>各種媒体において、加入促進に向けた呼びかけを実施することができたため、各啓発により若干の加入率上昇が認められた。</p> <p>【実施できなかったこと】</p> <p>住基システム更新に伴い世帯数の把握方法を変更したため、加入率が低くなった。 引き続き新システムから抽出されるデータのもと、加入率算出方法の精度を高める。</p> |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

B



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 引き続き、市公式ウェブサイトや市広報紙、転入手続時におけるチラシの配布など、多様な手段によって町内会の必要性や加入促進のための啓発を進める必要がある。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|-----------|-----|--|--------------------------------------|---|--|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (2) | 多様な媒体を活用した情報の発信・共有 | | | | |
| 施策の目的 | | ウェブサイト等の電子媒体や広報あんじょう等の紙媒体、口コミ等を活用して、市民活動のPRや情報の発信・共有を行う。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 10 | 企画広報事業(あんじょう社協だよりの発行) | 28 | , 29 | | |
| I 事業内容 | | 社会福祉協議会の取組や地区社会福祉協議会及び町内福祉委員会等の取組、地域福祉活動を進めていく上で役立つ情報を広く市民に提供する。 | | | | |
| D 実績 | | 毎月15日に発行し、広報あんじょう15日号へ折り込みで全戸配布している。 | 毎月15日に発行し、広報あんじょう15日号へ折り込みで全戸配布している。 | 社協広報誌「社協だより」を毎月15日発行し、広報あんじょう15日号へ折り込みで全戸配布している。 特集記事等の内容は以下のとおり。 ①4月15日号 福祉センターに関する情報を掲載。 ②8月15日号 介護予防に関する情報 ③10月15日号 障がい者グループホームに関する情報 ④12月15日号 地域包括ケアに関する情報 | 毎月15日に発行している。(全戸配布) 福祉サービスやボランティア、地域福祉活動の啓発を盛り込んだ記事を掲載している。 | 毎月15日に発行している。(全戸配布) 福祉サービスやボランティア、地域福祉活動の啓発を盛り込んだ記事を掲載している。 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | 記事を大きく①福祉サービスの啓発、②市内の福祉全般に関する啓発、③ボランティアの啓発、④地域福祉活動の啓発の4つに分け、それぞれの担当係で作成している。記事が偏らないよう、バランスよく掲載するよう心掛けており、市民の方にもわかりやすいよう作成している。 市民の代表である社協役員に広報紙についてアンケートを実施し、いただいた意見やアドバイス等を基に定期的に広報紙の見直しを行っている。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 市民の代表である社協役員へアンケートを実施し、いただいた意見を取り入れながら、より親しみやすい広報紙作成を心掛けた。平成29年度にはカラー発行も2回行うことができた。 【実施できなかつたこと】 社協の事業内容の紹介が多く、誰もが気になるような福祉に関する幅広いテーマで記事作成ができる傾向がある。 | |
| A 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | カラー化を定期的に行い、より読みやすく、親しみやすい広報紙作成を目指す。 記事内容としては誰もが気になるような福祉のテーマを取り扱うことで、市民の福祉への関心を高め、福祉の啓発に取り組む。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | | | | |
|---------|-----|---|--|--|--|--|--|--|--|
| 基本方針 | 1. | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 生涯学習課 | | | | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への参加のきっかけづくり | | | | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動を始めた個人と団体のマッチングや協働したい団体と団体同士のマッチングを行うなど、市民活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、業務に関する相談窓口の充実を図ること。 | | | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | | | | |
| P 事業 | 11 | 悠久熟年世代の生きがい探し講座事業 | 28 | 29 | | | | | |
| D 実績 | | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を12教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っています。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を12教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 | シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | 協働のまちづくり人材を発掘するため、団塊の世代をはじめとした熟年世代を対象に連続講座を開催した。講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう、次の段階の講座も開催した。受講者のボランティア等の活動も行われている。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 高齢者教室は、地区公民館の定番的な講座として定着し、地域の老人クラブ等の協力を得ながら継続できた。シルバーカレッジは、月2回程度の講座参加を2年間継続することで参加者の連帯感が高まり、卒業後もOB会が結成され、活動が継続されている。 【実施できなかつたこと】 特になし | |
| A 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |

| | |
|-----------------|-------|
| A 事業の今後の取組方針 | 特になし。 |
|-----------------|-------|

市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|------|---|--|---|---|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への参加のきっかけづくり | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動を始めたい個人と団体のマッチングや協働したい団体と団体同士のマッチングを行うなど、市民活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、業務に関する相談窓口の充実を図ること。 | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| | | 28 | | 29 | |
| P 事業 | 12 | きっかけマッチングコーディネート事業 | | | |
| D 実績 | 事業内容 | ボランティア活動や町内会活動など市民活動に興味はあるが、参加するきっかけがつかめない市民を対象に、市民活動センターにおいて市民協働コーディネーターが相談を受付け、団体を紹介する相談業務を行う。また、市民活動を始めたい人が、既に市民活動を行っている人に体験談を聞く、マッチングセミナーを開催する。 | | | |
| | 未実施 | コーディネーターによる相談業務は未実施 マッチングセミナー的なものとして市民団体主催の自主事業(3講座)や、交流センターまつりやわくわく交流会の中で、市民活動を行っている人の体験談等を紹介した。 | コーディネーターによる相談業務は未実施だが、交流センタースタッフがコーディネート業務を実施している。 マッチングセミナー的なものとして、市民と市民活動団体を結びつける目的の自主事業を7講座開催し、「交流センターまつり」では、市民活動センター登録団体に対してブースを提供し、市民に対して自分たちの活動を発表する機会を設けた。 | 交流センタースタッフが相談及びコーディネート業務を実施している。 マッチングセミナー的なものとして、登録団体との協働事業を5事業実施した。「交流センターまつり」では、市民活動登録団体が、自分たちの活動を市民に対して発表する機会を設けた。また、市民交流センター自主事業に、近隣高校生の参加を依頼し、6人の高校生が当日参加した。 | 交流センタースタッフが相談及びコーディネート業務を実施している。 マッチングセミナー的なものとして、登録団体との協働事業を6事業実施した。「交流センターまつり」では、市民活動登録団体が、自分たちの活動を市民に対して発表する機会を設けた。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-----------------|---|---|
| C 中間総評 | ・市民交流センターのスタッフが業務として相談・コーディネート業務を実施している。相談件数等は年々増加しており(25年:70件、26年:73件、27年:93件、28年:97件、29年:〇〇件)、日常の取組が利用者に認められた結果、相談件数の増加につながっているものと思われる。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・指定管理者の業務として、相談及びコーディネート事業を行った。 ・マッチングセミナー的な事業として、登録団体との協働事業を毎年実施できた。 ・市民交流センターまつりを、登録団体による、日ごろの活動を発表する場として提供できた。 | 【実施できなかったこと】 市民活動を始めたい人に対しての、きっかけづくりとしての場の提供ができなかった。 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |
| A 事業の今後の取組方針 | 市民活動に参加する、あるいは始めるきっかけとなる事業という点を意識して事業を実施していく。 | |

市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|--|--|--|---|---|---|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への参加のきっかけづくり | | | | |
| 施策の目的 | 市民活動を始めたい個人と団体のマッチングや協働したい団体と団体同士のマッチングを行うなど、市民活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、業務に関する相談窓口の充実を図ること。 | | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 13 | 協働事業お見合いコーディネート事業 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 協働事業の実施に向けて、協働したい団体を対象に市民活動情報サイトによる協働パートナーの募集や市民活動センターにおける個別相談マッチング、わくわく交流会における集団マッチングを行う。 | | | | |
| | | 市民活動センターにて個別相談には対応しているが、マッチングに関する募集事業は未実施。 | 市民活動センターにて個別相談には対応しているが、マッチングに関する募集事業は未実施。 | 個別相談には市民活動センターにてスタッフが対応している。社会福祉協議会主催の「地域福祉マッチング交流会」に市民活動センターとともに参加し、ブースを設けてマッチングを実施した。また、「わくわく交流会」や「安城市で活躍する人たちの交流会」では、市内で活動する団体同士が交流する機会を設けた。 | 個別相談には市民活動センターにてスタッフが対応している。社会福祉協議会主催の「地域福祉マッチング交流会」に市民活動センターとともに参加し、ブースを設けてマッチングを実施した。市民交流センター自主事業では、「わくわく交流会」や「安城市で活躍する人たちの交流会」、「市民活動交流会2017in安城」を団体同士のマッチングを目的に開催し、それぞれの団体が交流する機会を設けた。 | 個別相談には市民活動センターにてスタッフが対応している。社会福祉協議会主催の「地域福祉マッチング交流会」に市民活動センターとともに参加し、ブースを設けてマッチングを実施した。市民交流センター自主事業では、「わくわく交流会」や「安城市で活躍する人たちの交流会」、「市民活動交流会2018in安城」を団体同士のマッチングを目的に開催し、それぞれの団体が交流する機会を設けた。 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|--|----------|
| C 中間総評 | ・わくわく交流会については、市民活動補助金成果報告会も兼ねて毎年実施している。参加者からは「協働相手を探すことができた」や「他団体や市民の方々の意見を聞いて楽しかった」など、好意的な感想をいただいた。また、団体同士の交流を目的に、28年度には「安城市で活躍する人たちの交流会」や「市民活動交流会2017in安城」を開催し、参加者からも「毎年開催してほしい」等の意見をいただき、こちらも好評だった。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターのスタッフによる個別相談への対応を実施している。 ・センター内での活動だけでなく、社協のマッチング交流会に市民活動センターとして参加したり、団体同士が交流し、協働するきっかけとなる交流の機会を設けることができた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談への対応事例や、交流会でのマッチング事例など、センターでの取組結果を見える化するという視点での取り組みが不足していた。 | |
| B 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成：(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 成立したマッチング事例や協働事例を館内等で積極的に公開することで、さらなる協働の呼び水となるよう方法を検討していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|-------------------------|--|--|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への参加のきっかけづくり | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動を始めたい個人と団体のマッチングや協働したい団体と団体同士のマッチングを行うなど、市民活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、業務に関する相談窓口の充実を図ること。 | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 14 | 市民活動活性化事業(市民活動団体支援) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 安城市民活動センターにおいて、市民活動に関する情報を収集し、館内掲示や配布により広く情報の発信を行う。また、相談を受けることで、個人と団体もしくは団体と団体のマッチングを行う。 | | | | |
| | | 相談件数:70件 マッチング件数:39件 | 相談件数:73件 マッチング件数:29件 | 相談件数:96件 マッチング件数:40件 【相談事例】 ・事業(講座)の際にふるまいとして提供するお菓子を授産施設から調達したいので、紹介して欲しい。 ・ホームページのデザインをおしゃれに変更したいが、詳しい人を教えて欲しい。 ・多くの人たちに自分の活動を紹介する場所を教えて欲しい | 相談件数:97件 マッチング件数:27件 その他にも交流センター館内掲示に、団体の活動PRのスペースや助成金情報を掲載し、情報発信を行うようにした。 | 相談件数:96件 マッチング件数:47件 その他にも交流センター館内掲示に、団体の活動PRのスペースや助成金情報を掲載し、情報発信を行うようにした。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|---|
| C 中間総評 | ・相談件数については、順調に増加しているが、マッチング件数が25年度からの比較で最も少ない件数となってしまった。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・館内の掲示スペースを活用して、団体やイベントのPRや助成金情報等を発信できた。 ・市民活動センターにおいて、相談、マッチング業務を継続して実施した。 【実施できなかったこと】 ・マッチングの事例を館内掲示等でPRできなかったこと。 ・マッチング件数については、5年間で伸び悩んだが、館内掲示を活用した困りごとと出来ることのマッチングなど、件数を増加させるための工夫が couldn't be done。 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ・マッチング率や件数を増加させるために、例えば「相談・マッチングコーナー」を館内掲示として設けて状況見える化して取り組む。 ・交流会事業の事後フォローを充実させ、マッチング状況を見える化していく。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|--|--|--|--|
| 基本方針 | 1 | 市民協働に関する情報の収集及び提供 | 担当課 | 社会福祉協議会 |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への参加のきっかけづくり | | |
| 施策の目的 | 市民活動を始めたい個人と団体のマッチングや協働したい団体と団体同士のマッチングを行うなど、市民活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、業務に関する相談窓口の充実を図ること。 | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| | | 28 | 29 | |
| P 事業 | 15 | ボランティア活動振興事業(ボランティアセンターの運営) | | |
| D 実績 | | 毎週火・木・土には専任のボランティア相談員を配置し、相談日以外の開館日は担当職員が随時相談に対応している。ボランティア団体・個人については、登録制度をとり、ボランティニアニーズに応じて登録紹介、募集、関係者への相談を行っている。 ニーズ把握、相談支援向上のため、登録者と相談利用者へアンケートを実施した | 毎週火・木・土には専任のボランティア相談員を配置し、相談日以外の開館日は担当職員が随時相談に対応している。ボランティア団体・個人については、登録制度をとり、ボランティニアニーズに応じて登録紹介、募集、関係者への相談を行っている。 ニーズ把握、相談支援向上のため、登録者と相談利用者へアンケートを実施した | 毎週火・木・土には専任のボランティア相談員を配置し、相談日以外の開館日は担当職員が随時相談に対応している。ボランティア団体・個人については、登録制度をとり、ボランティニアニーズに応じて登録紹介、募集、関係者への相談を行っている。 ニーズ把握、相談支援向上のため、登録者と相談利用者へアンケートを実施した |
| | | | | 相談日を社会福祉会館の開館日に合わせ、毎週火～土に変更し、担当職員と相談員で対応している。 ボランティア団体・個人については、登録制度をとり、ボランティニアニーズに応じて登録紹介、募集、関係者への相談を行っている。 マッチング交流会において、協働の促進を行っている。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|-------------|--|---|
| C 中間総評 | ボランティア相談日には、相談対応できているが、時間と曜日が限られており、初回に受けた相談員が完了まで相談を全うすることは少ない。相談員の相談内容を別の担当職員が引き継いだり調べたりしながら、相談完了までの対応を都度行うため、相談者にとっては話をする相手が随时変わってしまうという難点がある。 また、相談員は完了まで携わることが少ないため、相談スキルの向上に時間がかかる。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 担当職員と相談員で定期的に情報共有を行うことで、効率的に相談に対応することができた。 また、登録の団体や個人にマッチング交流会に参加していただくことで、協働のきっかけを作ることができた。 【実施できなかつたこと】 市民に対して、インターネット（社協ウェブサイト、市民活動情報サイト）を活用しての情報提供体制の整備ができなかった。 | |
| A 施策の進捗度 | -達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 登録のある団体や個人だけでなく、多くの市民にボランティアに関心をもっていただけるようインターネットを活用した情報発信の仕組みを整える。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|---|----------------------------|--|---|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 16 | 市民活動活性化事業(人材・団体育成事業) | | | | |
| | 事業内容 | 安城市民交流センターにおいて、市民活動に造詣が深い人や先進的な活動を行っている団体・個人を招いて、スキルアップ講座及びわくわくサロンを開催し、日ごろから市民活動をしている団体や市民活動に関心がある市民に学ぶ機会を提供する。 | | | | |
| D 実績 | | スキルアップ講座:1回 わくわくサロン:28回 | スキルアップ講座:3回 わくわくサロン:28回 | スキルアップ講座:3回 ・保険を学ぼう(参加者13人) ・情報サイト活用講座(参加者24人) ・パソコンde画像編集講座(参加者7人) ・わくわくサロン:29回 ・お絵かき教室(参加者延べ415人) | スキルアップ講座:3回 ・もっと活用!情報サイト ・フェイスブック講座 ・補助金説明会 ・コーディネート力スキルアップ講座 ・クラウドファンディングに挑戦! ・社会起業家養成講座 ・わくわくサロン:26回 ・お絵かき教室(参加者延べ387人) | スキルアップ講座:6回 ・もっと活用!情報サイト ・フェイスブック講座 ・補助金説明会 ・コーディネート力スキルアップ講座 ・クラウドファンディングに挑戦! ・社会起業家養成講座 ・わくわくサロン:26回 ・お絵かき教室(参加者延べ356人) |



第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-------------|--|---|
| A 中間総評 | 継続してスキルアップ講座開催で來ている。特に27年と28年は、パソコンやSNSなど、登録団体が比較的苦手にしているであろう課題を解決するための講座を企画・開催し、参加者の中からは、市民活動情報サイトを積極的に活用する団体や、フェイスブックページを個人で開設して、所属する団体の情報を掲載したりする受講生がいた。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録団体の現状に応じたスキルアップ講座が継続して実施できた。 クラウドファンディング講座といった、レベルは高いが最近のトレンドとなっている内容の講座も実施できた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録団体の現状に応じた内容を意識した内容であったが、これからの市民活動がより高いレベルで継続するための挑戦的な内容の講座が少なかった。 わくわくサロンについては、当初の趣旨から大きく外れてしまった。 | |
| 施策の進捗度 | <p>・達成:(施策自体の達成)</p> <p>・A:順調に進捗した</p> <p>・B:概ね順調であったが、改善の余地がある</p> <p>・C:遅れている(大幅な改善が必要)</p> | B |



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ・指定管理者が交代することもあり、わくわくサロンが本来の趣旨で開催されるよう検討していく。 ・また、クラウドファンディングやプロボノなど、より登録団体の伴走支援につながるスキルアップ講座の開催を検討していく。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|---|-----|-------|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 生涯学習課 |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 17 | 28 | 29 | |
| D 実績 | | | | |

17 悠々熟年世代の生きがい探し講座事業【再掲】

事業内容 協働のまちづくり人材を発掘するため、団塊の世代をはじめとした熟年世代を対象にファイナンシャルプラン講座やボランティア講座、趣味・教養講座など定年後の暮らし全般に役立つ連続講座を開催する。また、講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう支援を図る。

シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を12教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。

シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を12教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。

シルバーカレッジを2教室開催、高齢者教室を11教室開催。受講者は卒業後も自主活動やボランティア等の社会貢献活動を行っている。

シルバーカレッジ受講生・卒業生を対象にステップアップ講座を開催し、ボランティア活動や地域活動に参加できるようレベルアップ講座を開催。

※【再掲】につき、記入省略
再掲元：No.11

第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|---|
| 中間総評 | 協働のまちづくり人材を発掘するため、団塊の世代をはじめとした熟年世代を対象に連続講座を開催した。講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう、次の段階の講座も開催した。受講者のボランティア等の活動も行われている。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No. 11 【実施できなかつたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No. 11 |
| 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A：順調に進捗した ・B：概ね順調であったが、改善の余地がある ・C：遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|-----------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No. 11 |
|-----------------|-----------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | |
|-----------------|-----------|---|---|--|---------------|
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 18 | 協働のまちづくり人材養成講座事業 | | | |
| | 事業内容 | ワークショップを通じて、市民や市職員が協働のまちづくりに関する基本的な知識やスキルを共に学び合い、協働のまちづくりを実践する仲間づくりができる講座を開催する。 | | | |
| D 実績 | | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(びと)養成講座」として、市民と職員総勢42名が全5回の講座を受講した。 | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(びと)養成講座中級編」として、市民と職員総勢29名が全5回の講座を受講した。 | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(びと)養成講座初級編」として、市民(22名)と職員(12名)総勢34名が全5回の講座を受講した。 初級編修了者の市民16人と職員13人の合計29人でまちづくり人養成講座(中級編)を開催し、23人が講座を修了した。 | H29年度は講座実施せず。 |



第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|---------------------|---|
| C 5年間の総評 | <p>中間総評</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで初級編、中級編を2回ずつ実施し、延べ134人が受講した。うち26年度修了生の19名を中心に協働サポータークラブが発足し、協働のまちづくりにむけて活動中である。 <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> H25～H28年度にかけて「まちづくり人養成講座（初級編・中級編）」を計2回開催し、延べ134人が受講した。 修了生のうち、希望者を協働サポーターに任命し、サポーターを中心に協働サポータークラブが発足した。 <p>【実施できなかつたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 |
| B 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> 達成：(施策自体の達成) A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) A |



| | |
|-------------------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 29年度については、まちづくり人養成講座は実施しない予定であるが、30年度以降どのような形で人材養成していくのか、また、その内容はどのようなものが適切なのかを検討していく。 |
|-------------------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|-------------------|-------------------------------|--|--|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 19 市民協働コーディネーター育成事業 | | | | | |
| D 実績 | 初級・中級・上級編の講座により、安城市内及び市役所内で活躍する市民協働コーディネーターを育成する。 | | | | | |
| | | 初級編講座を実施し、42名が受講。 | 25年度の初級編に引き続いで中級編を実施し、29名が受講。 | 27年度は、まちづくり人養成講座(初級編)を開催し、34名が受講した。 26年度に実施したまちづくり人養成講座中級編の修了者のうち、希望者を協働サポートとして任命。サポートを中心任意団体「安城市市民協働サポートクラブ」を発足。「わくわく交流会」や「安城市で活躍する人の交流会」でのファシリテーションを実践した。 | 協働コーディネーターの育成は未実施。 協働サポートクラブ及び市民交流センタースタッフがコーディネーター的役割を担い、交流センター自主事業や市の事業の中でファシリテーション業務を実施したり、自主事業の企画・運営を実施している。 27年度まちづくり人養成講座修了生を中心に、まちづくり人養成講座(中級編)を実施した。 | 協働コーディネーターの育成は未実施。 協働サポートクラブ及び市民交流センタースタッフがコーディネーター的役割を担い、交流センター自主事業や市の事業の中でファシリテーション業務を実施したり、自主事業の企画・運営を実施している。 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| 中間総評 | ・まちづくり人養成講座として、初級編、中級編までは開催しているが、上級編については未開催 ・現在は交流センターのスタッフ及びまちづくり人養成講座（中級編：26年度及び28年度に実施）修了者のうち、希望者を将来のコーディネーター候補となる、協働サポートとして任命した。計31名 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 まちづくり人養成講座を通じて、31名の協働サポートを養成した。 |
| 施策の進捗度 | 【実施できなかったこと】 協働コーディネーターの養成 |

B



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | コーディネーターとしては、指定管理者が業務として実施していくべきと考えるが、市民レベルで協働を盛り上げる協働サポートの養成については、継続して実施していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|---|--|------------------------------------|---|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 20 | 市民活動団体交流及び活動発表会事業(わくわく交流会事業) | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 団体がお互いの活動を紹介し、まちづくり活動を行う市民や団体同士が交流し、お互いに知り合い、共に学び合いながら、それぞれの特徴を活かして、相互連携・仲間づくりにつなげていく交流会を開催する。 | | | |
| | | 1回開催(平成26年2月22日、参加団体:6団体、参加者数:52名) | 1回開催(平成27年2月22日、参加団体:9団体、参加者数:62名) | <p>1回開催(平成28年2月13日、参加団体:8団体、参加者数:57名) 【内容】 第1部として開催した平成27年度市民活動補助金交付事業の成果報告を受け、参加者全員で、「活動成果をあげるために、みんなでできること」をテーマにワークショップを実施した。 【参加者の声】 ・他団体との交流が図れてよい機会だった。 ・協働相手を探すことができた。 ・情報交換ができる時間が欲しかった。</p> <p>①市民活動補助金成果報告会を29年2月11日に開催(参加団体:6団体、参加者数:47名) 【内容】 第1部の平成28年度市民活動補助金交付事業の成果報告を受け、「今後自分たちの活動に活かしたいこと」について、ワークショップを実施した。</p> <p>②交流センター自主事業「市民活動交流会2017in安城」を29年2月26日に開催(参加団体:31団体、参加者数181名) 【内容】 参加団体が、自団体の活動を紹介し、自由に交流しあった。</p> | <p>①市民活動補助金成果報告会を30年3月3日に開催(参加者数:44名) 【内容】 H29年度市民活動補助金交付団体の活動報告を公開の場で行った。第2部として、第1次市民協働推進計画のこれまでの実績について、市民活動団体の視点から評価するワークショップを行った。</p> <p>②交流センター自主事業「市民活動交流会2018in安城」を30年2月18日に開催(参加者数130名) 【内容】 参加団体が、自団体の活動を紹介し、自由に交流しあった。</p> |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | |
|-------------|---|
| C 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> ・27年度より、わくわく交流会だけでなく、安城市で活躍する人たちの交流会を開催するなど、団体同士がお互いに知り合うことを目的とした交流会を実施し、参加者アンケートからも「協働する相手を探すことができた」等好評をいただいている。 ・28年度に新たにマッチングに特化した交流会「市民活動交流会2017in安城」を協働サポータークラブと協働して開催し、参加者アンケートからも「他の団体を知ることができ、マッチングできそうかと考える機会となつた」等の声をいただくことができた。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動補助金の成果報告会をはじめとして、団体同士が自由に交流する機会を設けることができた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会を開催した後のフォローや交流した成果(マッチングや新たに生まれた協働)が見える化されておらず、交流会の成果が見えづらくなっている。 |
| B 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

B



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 継続して交流会を開催していくが、その成果が見える化できるよう方法を検討していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|---|---|--|--------------------------------------|--|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 21 | 町内会ノート研修事業 | 28 | 29 | |
| D 実績 | | 町内会長連絡協議会において、新任町内会長向けに、新たに町内会の役員になる場合に必要最小限の知識やノウハウを学ぶ研修を、町内会ノートを基に行う。 | | | |
| | | 全町内会長が参加される総会にて、ノートを配布し説明を行った。 | ノート掲載内容を充実させるほか、掲載の必要性の薄いと思われる内容を削除した。全町内会長が参加される総会にて、ノートを配布し説明を行った。 | 全町内会長が参加される総会において、町内会長ノートを配布し説明を行った。 | ノート掲載内容の見直しを行い、全町内会長が参加される総会において、配布し説明を行った。 また、町内会事務の参考としてもうため、市公式ウェブサイト内に補助事業等の様式と併せて公開していることに関する周知を図った。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | 新任、留任を問わず全町内会長に情報提供をすることができ、実際に市への問い合わせや各種補助金申請の参考にしていただくことができた。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できしたこと】 新任、留任を問わず全町内会長に情報提供をすることができ、実際に市への問い合わせや各種補助金申請の参考にしていただくことができた。 【実施できなかったこと】 特になし |
| B 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

| | |
|-----------------|------------------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 最小限の説明でも活用いただけるよう、内容や構成の見直しを図っていく。 |
|-----------------|------------------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|--|---|--|--|--|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 22 | 町内公民館活動事例発表会開催事業 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 町内公民館活動推進モデル地区を指定し、公民館活動の充実を図るとともに、公民館事業の事例発表を行う。 | | | | |
| | | 多くの公民館長及び主事の聴講のもと、モデル地区指定をされた3公民館の事例発表を行った。館長、主事のほか公民館活動にかかわる人材の聴講も奨励した。 | 地区の指定から事業の指定へと改めた。多くの公民館長及び主事の聴講のもと、モデル事業の指定を受けた3公民館の事例発表を行った。館長、主事のほか公民館活動にかかわる人材の聴講も奨励した。 | 西尾町内会、二本木連合町内会をモデル地区として指定し、公民館長、主事を対象としたモデル事業の事例発表を行った。館長、主事のほか公民館活動にかかわる人材の聴講も奨励した。 | 住吉町内公民館、箕輪町内会公民館の公民館活動事業をモデル事業として指定した。 | H29年度モデル地区の今池町・福音町各公民館における活動事例を紹介し、公民館長・公民館主事に対して今後の各公民館における公民館活動がより有益性の高いものへとするための参考としていただいた。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | ・各町内会で活発に公民館活動が行われている。 ・各町内公民館長及び主事の実施する活動の参考にしていただくために、継続して事例発表などの報告会を開催することができた。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 町内公民館活動推進モデル地区を指定し、公民館活動の充実を図るとともに、公民館事業の事例発表を行い、公民館長並びに公民館主事に対し公民館活動に対する意識の醸成と共有を図ることができた。 【実施できなかつたこと】 特になし |
| 施策の進捗度 | ・達成(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|-----------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 先進的な活動事例の紹介するため、引き続き研修会を開催。 |
|-----------------|-----------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|---|--|--|--|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 23 | 町内会長連絡協議会パソコン講座事業 | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 町内会長連絡協議会において、パソコン操作など町内会の運営に必要な能力の向上を図る講座を開催する。 | | | |
| | | 内容ごとに講座を8回に分けて開催した。SNSの活用についての講座を設けた。 | 内容ごとに講座を8回に分けて開催した。パワー・ポイントの活用についての講座を設けた。 | 7月に講座を7回に分けて開催した。受講内容をより活かしていただけるよう、講座内容のフォロー・アップを行う実践編の講座を実施した。 | 7月に講座を8回に分けて開催した。個人情報保護や情報セキュリティに関する講座を設けた。 |
| | | | | | 講座を8回に分けて、Word, Excel等の基本操作から、画像取り込み・編集等の講座を開催した。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | 受講を希望する町内会から最低各1名は受講してもらうことができた。アンケートによれば概ね好評であるが、受講者の技量に差があり、講師・受講者双方から講座の進め方の改善を求められる面もあった。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】町内会事務に携わる役員・事務員に対し、町内会活動における様々な事務において参考になる講座を開催することができた。 【実施できなかったこと】受講者の技量や要望にマッチした講座内容と周知方法の検討 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 参加者のニーズにより適した内容の講座を検討する。 講座内容を分かりやすくするため、チラシを作成して参加を呼びかける。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|---|--|--|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 社会福祉協議会 |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | |
| 施策の目的 | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 24 | ボランティア活動振興事業(講座及びセミナー) | 28 | 29 |
| | 事業内容 | 園芸福祉ボランティア入門講座や手話基礎講座など、ボランティア人材を育成するための講座や、ボランティアのためのパソコン講座といったボランティアの事務処理等のスキルアップを図る講座を開催する。 | | |
| D 実績 | 今後ますます重要となる地域に根ざしたボランティアの育成を目指し、各福祉センターを拠点にボランティア養成講座を実施した。 | 今後ますます重要となる地域に根ざしたボランティアの育成を目指し、各福祉センターを拠点にボランティア養成講座を実施した。 | 市内で活躍する障がい者支援ボランティア、傾聴ボランティアの他に、今後ますます重要となる地域に根ざしたボランティアの育成を目指し、各福祉センターがボランティア養成講座を実施した。ボランティア活動の自発的な情報発信を目指してスキルアップを図るためHPづくり講座も実施した。 | 市内で活躍する障がい者支援ボランティア、傾聴ボランティアの他に、今後ますます重要となる地域に根ざしたボランティアの育成を目指し、各福祉センターを拠点にボランティア養成講座を実施した。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| A 中間総評 | 市内全域でニーズのある障害者支援ボランティアや傾聴ボランティアの養成講座以外に、各福祉センターでも地域のニーズに根差したボランティア養成講座の企画実施が定着はじめている。各地域でのボランティア養成は、地域福祉活動推進のため今後益々必要になる。既存のボランティアのスキルアップを目指した講座を実施し、主体的な活動ができるよう支援する。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ボランティア活動に参加するきっかけとなる講座を実施し、人材の発掘・育成をすることができた。 【実施できなかったこと】 ボランティアに関心のある人に対しては、養成講座により活動参加へのきっかけづくりができたが、関心がない人に対してのきっかけづくりができなかつた。 |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ボランティア活動に参加するきっかけとなる講座の開催だけでなく、福祉センターや公民館で活動する自主グループや趣味グループなどにも担い手としてボランティアへの参加を促す。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|---|--|---|---|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 25 | 地域福祉活動推進事業(地区社会福祉協議会会长連絡会主催事業の開催) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 町内福祉委員会の組織力を強化するため、新任福祉委員研修会や町内福祉委員会全体研修会等を開催する。 | | | | |
| | | 平成25年度は、地域福祉計画策定の年度にあたったため、地域福祉計画策定の啓発事業「市民たすけあいフォーラム」として、町内福祉委員会全体研修会を開催した。 | 平成26年度は、第3次地域福祉計画の推進の初年度であったので、計画の推進に向けて、計画の重点項目に沿ったテーマで町内福祉委員会全体研修会を開催した。 | 平成27年度は介護保険制度の改正に伴い地域包括ケアシステムの構築に向けた市の動き、29年度からの新しい総合事業に向けた地域づくりを考える」をテーマに、町内福祉委員会全体研修会を開催し、講演とパネルディスカッションを行った。 | 平成28年度は、29年度からの新しい総合事業に向け、「超高齢社会におけるこれまでの地域づくりを考える」をテーマに、町内福祉委員会全体研修会を開催し、講演とパネルディスカッションを行った。 | 平成29年度は、社会福祉法改正(30年4月)の中で示される基本理念「地域共生社会」の実現に向けて「地域共生社会の実現に向けたキックオフ」をテーマに現在の福祉委員会の活動の現状を認識するとともに、今後の福祉委員会のあり方について考える機会とするための見守り活動研修会と町内福祉委員会全体研修会を開催した。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | 新任福祉委員研修会は、地区によって状況が異なることから、各地区で必要に応じて開催することとした。町内福祉委員会全体研修会は、その年度の地域福祉活動に必要な社会情勢の啓発と活動事例を報告する場として定着し、年々参加者も増加してきている。年に一度、町内福祉委員会関係者が集い、学ぶ場として重要な役割を果たしている。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 町内福祉委員会全体研修会を通して、市内で市民活動をされている方々の交流と情報交換、そして学びの場となっている。また先進的な講演や活動発表を行うことにより、次世代の市民協働の担い手の育成につながっている。新任福祉委員会研修会(地域福祉活動勉強会)を地区単位での開催にしたことにより、地区内の活動者同士の共通認識につながり、地区に必要な活動につながっていった。</p> <p>【実施できなかったこと】 活動の担い手について、地域間で格差が広がっている。</p> | |
| A 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |

| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 今後も継続して、市内全域での啓発のための講演会や活動発表の場を作っていくことにより、市民活動者の育成、活用を図っていくことが必要である。 |
|-----------------|--|

市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|---|--|--|--|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 26 | 地域福祉活動推進事業(地域福祉活動講座等事業) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 防災・福祉の研修会など、生活に密着した講習会を実施し、個別テーマごとの実践者の育成を行うとともに、他の地域団体での先進的な活動事例などを紹介し、活動のヒントを得られるような研修会を開催する。 | | | | |
| | | 平成25年度は、地域福祉計画策定の年度にあたったため、地域福祉計画策定の地域会議として、各地区社協での地域福祉に関するワークショップ等を延べ24回開催した。また、各地区では介護や介護予防に関する講座なども開催された。 | 平成26年度は、各地区社協で、地域見守り活動や地域包括ケア、サロン活動、防災、子どもの見守りなどのテーマで、地域福祉活動勉強会、福祉講演会、講座などが開催された。 | 平成27年度は、各地区社協で、地域見守り活動や地域包括ケア、サロン活動、防災、子どもの貧困などのテーマで、地域福祉活動勉強会、福祉講演会、講座などが開催された。 | 平成28年度は、各地区社協で、地域見守り活動や地域包括ケア、サロン活動、防災、子どもの貧困などのテーマで、地域福祉活動勉強会、福祉講演会、講座などが開催された。 | 平成29年度は、各地区社協で、地域見守り活動や地域包括ケア、地域共生社会、サロン活動、食と認知症、子どもの孤独や引きこもり・居場所、防災のテーマで地域福祉活動勉強会、福祉講演会、講座などが開催された。 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-----------------|--|
| C 中間総評 | 市全域での全体研修会と各地区(8地区)での研修会、講演会を毎年、開催している。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 それぞれ地区の状況に応じたテーマで、勉強会、講演会、講座などが開催された。</p> <p>【実施できなかったこと】 特になし。</p> |
| A 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |
| A 事業の今後の取組方針 | 地域住民のニーズに合わせた勉強会、講演会、講座の開催をしていくことで、担い手の育成・活用を図っていく。 |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|-----|---|-----|---------|----|----|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (1) | 担い手の育成・活用 | | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動に関するさまざまな講演会・講習会の実施や市民活動団体や市民が情報交換、意見交換できる交流会・発表会の開催、町内会における人材育成に努め、今後の市民協働の担い手の育成・活用を行います。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 27 | 町内会活動発表会開催事業(自主防災組織活性化事業、地域見守り活動モデル事業) | | | | |
| D 実績 | | <p>モデル事業を実施した町内会等の活動を市内の他の町内会に波及させるため、実際にどのように取り組んできたのか、そのノウハウや活動の秘訣などを紹介する活動事例発表会を開催する。</p> <p>平成25年度は、地域見守り活動推進事業の活動発表会と、自主防災組織支援事業の成果報告会を1回ずつ開催した。</p> <p>平成26年度は、地域見守り活動推進事業の活動発表会と、自主防災組織支援事業の成果報告会を1回ずつ開催した。</p> <p>平成27年度は、地域見守り活動推進事業の活動発表会と、自主防災組織支援事業の成果報告会を1回ずつ開催した。</p> <p>平成28年度は、地域見守り活動推進事業の活動発表会を2月に、自主防災組織支援事業の成果報告会を3月に1回ずつ開催した。</p> <p>地域見守り活動推進事業については、モデル地区として指定された福祉委員会のうち、里、相生、城向の各町内会福祉委員会の3団体が、1年間に実施した取り組みについて発表を行った。</p> <p>自主防災組織支援事業については、百石、城南、大山、赤松町自主防災組織が、訓練やワークショップに参加して感じたことや思いを発表した。</p> <p>平成29年度は、地域見守り活動推進事業の発表については、栄町、東町、城山福祉委員会がそれぞれの地区内で発表を行った。自主防災組織支援事業については、安城西中学校区にある各町内会が訓練やワークショップを通しての成果を手引書や指示書にまとめ、成果報告会の中で市内の自主防災組織に対して発表した。</p> | | | | |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | 地域見守り活動推進事業は、平成23年度からのモデル事業から始まり、今年度で6年目を迎え、ほぼ市内全域の町内福祉委員会に普及させることができた。 自主防災組織支援事業は、昨年度から「避難所開設」をテーマに、モデル地区の実践から検証することができ、有るべき方向性が見えてきた。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できしたこと】 地域見守り活動推進事業は、毎年モデル・推進指定を増やし、年度末に活動発表会を開催することにより、平成29年度には市内全域(76町内福祉委員会)で見守り活動を開始することができた。自主防災支援事業についても、年間を通じて地区を指定、活動し、年度末に成果報告会を開催することにより、ノウハウや活動の秘訣について普及することができている。</p> <p>【実施できなかったこと】 地域見守り活動推進事業については、すべての町内で活動が始まっているが、活動が停滞している地区も見られ、地域によって格差がある。</p> |
| A 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 地域見守り活動推進事業については、当初の予定通りに指定地区を市内全域に普及させることができたが、地域によって差がみられるため、今後は、安城市としての指定を継続しながら、地区独自の指定を設け、活動の普及を図っていくことが必要である。 自主防災組織支援事業については、今後、福祉的な配慮の必要な人たちの避難をどうしていくか等、福祉避難所との連携を検討していくことにより、地域全体に普及していくことが必要である。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|--|---|--|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 市職員の意識改革の推進 | | |
| 施策の目的 | | 職員向けの研修や「協働のまちづくり人材養成講座」を通じて、職員の協働に対する理解促進と意識改革、市の協働事業の推進を図る | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 28 | 職員向けの市民協働研修事業 | | 28 |
| D 実績 | | 協働のまちづくりを推進していく上で、市職員に必要とされる考え方や姿勢及び市民との関係を育む手法を習得するため、研修会を開催する。また、知識だけではなく市民活動団体の活動を目で見て、肌で感じ、理解を深めるため、体験研修を行う。 | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(びと)養成講座初級編」として、職員12名が全5回の講座を受講した。また、交流センターで1月に実施した「市民活動見学バスツアー」協働課職員が2名参加し、とよた市民活動センターや活動団体の現場を視察した。 | 職員13人にまちづくり人養成講座(中級編)への参加を呼びかけ、9月から全5回の講座を開催した。また、企画情報課とともに、全職員向けに市民参加と協働に関する研修を開催した。 H29年度は実施せず。 |



第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> 4年間で延べ66名の職員が受講し、うち25年度、26年度のまちづくり人養成講座を通じて、4名の職員が協働サポーターとして登録し、サポータークラブのメンバーとなった(現在は2名)。 現在は同じく協働サポーターとなった市民とともに、市や市民交流センターとともに活動している。 28年度は、企画情報課とともに市民参加と協働に関する全職員向けの研修を実施した。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくり人養成講座へ職員の参加も呼び掛けることで、継続的に職員に向けた研修が実施できた。 企画情報課とともに、全職員向けに市民参加と協働に関する研修を実施できた。 <p>【実施できなかつたこと】</p> <p>特になし。</p> |
| A 施策の進捗度 | <p>・達成:(施策自体の達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 機会をとらえて継続的に職員向け研修を実施し、市民活動や協働に関する理解を促していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|---|---------------|--|-----|-----|
| 基本方針 | 2. | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 人事課 | |
| 基本施策 | (2) | 市職員の意識改革の推進 | | | |
| 施策の目的 | 職員向けの研修や「協働のまちづくり人材養成講座」を通じて、職員の協働に対する理解促進と意識改革、市の協働事業の推進を図る。 | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 29 | 職員NPO法人派遣研修事業 | 28 | 29 | |
| D 実績 | 未実施 | 未実施 | NPO法人への派遣は未実施 交流センター自主事業で、「市民活動見学バスツアー」を実施し、協働課職員2名が参加した。 【内容】とよた市民活動センター、ラヴィドファム（子育て支援に関する活動団体）と情報交換し、NPO法人とよたエコ人プロジェクト（環境に関する活動団体）の主催するワークショップに参加した。 | 未実施 | 未実施 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | 市職員の協働に対する理解促進と意識改革は必要だが、市職員をNPO法人へ派遣するには至っていない。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】NPO法人への派遣には至らなかったが、指定管理の行うNPOとのワークショップに市民協働課職員が研修として参加した。 【実施できなかつたこと】市職員を研修のためNPO法人へ派遣できなかつた。 |
| C 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 派遣研修ではなく、集合研修により多くの職員に研修を伝えたほうが効果があると考えられる。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|--|---|---|---|---|
| 基本方針 | 2 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (2) | 市職員の意識改革の推進 | | | |
| 施策の目的 | 職員向けの研修や「協働のまちづくり人材養成講座」を通じて、職員の協働に対する理解促進と意識改革、市の協働事業の推進を図る | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 30 | 協働のまちづくり人材養成講座事業【再掲】 | | | |
| D 実績 | 事業内容 | ワークショップを通じて、市民や市職員が協働のまちづくりに関する基本的な知識やスキルを共に学び合い、協働のまちづくりを実践する仲間つくりができる講座を開催する。 | | | |
| | | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(ひと)養成講座」として、市民と職員総勢42名が全5回の講座を受講した。 | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(ひと)養成講座中級編」として、市民と職員総勢29名が全5回の講座を受講した。 | 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターに委託し、「まちづくり人(ひと)養成講座初級編」として、市民(22名)と職員(12名)総勢34名が全5回の講座を受講した。 | 初級編修了者の市民16人と職員13人の合計29人でまちづくり人養成講座(中級編)を開催し、23人が講座を修了した。 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.18 |



第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|---|
| C 中間総評 | ・これまで初級編、中級編を2回ずつ実施し、延べ134人が受講した。うち26年度修了生の19名を中心に協働サポータークラブが発足し、協働のまちづくりにむけて活動中である。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.18 【実施できなかったこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.18 |
| A 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | 29年度については、まちづくり人養成講座は実施しない予定であるが、30年度以降どのような形で人材養成していくのか、また、その内容はどのようなものが適切なのかを検討していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|---|-----------------------------|-----|-------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (1) | 市民活動拠点施設の活用 | | |
| 施策の目的 | 市民活動の拠点となる市民活動センターや地区公民館、福祉センター等の公共施設が、市民活動団体や地域団体にとってより一層利用しやすいものになるよう施設の管理・運営に努めること | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 31 | 市民活動活性化事業(市民活動センター登録団体への支援) | 28 | 29 |
| D 実績 | 実施済み | | | |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|--|---|
| 中間総評 | ・毎年実施している利用者アンケートによると、全体的な満足度は26年度(4.27点)、27年度(4.46点)、28年度(4.68点)と高評価を得ている(5点満点での評価)。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動のサポートの拠点として、継続して実施できている。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 | |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) <ul style="list-style-type: none"> ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |



| | |
|-----------------|-------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 継続して実施していく。 |
|-----------------|-------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|---|---|---|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 生涯学習課 |
| 基本施策 | (1) | 市民活動拠点施設の活用 | | |
| 施策の目的 | | 市民活動の拠点となる市民活動センターや地区公民館、福祉センター等の公共施設が、市民活動団体や地域団体にとってより一層利用しやすいものになるよう施設の管理・運営に努めること | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 32 | 地区公民館管理・運営事業 | | 28 |
| D 実績 | | 事業内容 学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり、ひとづくりの拠点としての役割を果たす。 | | 29 |
| | | 設備の整備を行い、気持ちよく利用している。 H26からH27年度にかけて明祥プラザを建設。公民館・福祉センター・児童センター等の複合施設とした。 | 設備の整備を行い、気持ちよく利用している。 H26からH27年度にかけて明祥プラザを建設。公民館・福祉センター・児童センター等の複合施設とした。 | 設備の整備を行い、気持ちよく利用している。 H29からH30年度にかけては、文化センターの大規模改修を実施予定。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|-----------------|---|---|
| C 5年間の総評 | 総評 学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり、ひとづくりの拠点としての役割を果たすための整備に努めた。明祥プラザは、さまざまな利用者が交流しあえる施設となった。 【実施できたこと】 地区公民館の保全工事を行うことができ、2施設において大規模な工事の実施及び開始することができた。 【実施できなかったこと】 特になし | |
| A 事業の今後の取組方針 | 施策の進捗度 ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | A |
| | 特になし | |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|-------|------|---|---|---|--|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 社会福祉協議会 | |
| 基本施策 | (1) | 市民活動拠点施設の活用 | | | |
| 施策の目的 | | 市民活動の拠点となる市民活動センターや地区公民館、福祉センター等の公共施設が、市民活動団体や地域団体にとってより一層利用しやすいものになるよう施設の管理・運営に努めること | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | |
| | | 28 | 29 | | |
| 事業 | 33 | 地域福祉センター管理・運営事業(福祉の拠点づくり事業) | | | |
| | 事業内容 | 地域福祉活動を推進するための拠点施設として、福祉センターの管理運営を行う。 | | | |
| 実績 | | 7か所の福祉センターの管理運営を行い、福祉センターにおいて介護予防の体操や、高齢者や障害者を対象とした講座やボランティア講座、センターサロンなどを開催し、地域福祉の推進に努めた。 | 7か所の福祉センターの管理運営を行い、福祉センターにおいて介護予防の体操や、高齢者や障害者を対象とした講座やボランティア講座、センターサロンなどを開催し、地域福祉の推進に努めた。 | 7か所の福祉センターの管理運営を行い、福祉センターにおいて介護予防の体操や、高齢者や障害者を対象とした講座やボランティア講座、センターサロンなどを開催し、地域福祉の推進に努めた。 | 7か所の福祉センターの管理運営と1か所の福祉センター事業を行い、福祉センターにおいて介護予防の体操や、高齢者や障害者を対象とした講座やボランティア講座、センターサロンなどを開催し、地域福祉の推進に努めた。 |



第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|--------|--|
| 中間総評 | 全体としては、今年度明祥福祉センターもオープンし、すべての地区で福祉センターサロンや講座、介護予防事業が行われようになり、順調に推移してきている。ただ、今年度オープンした福祉センターもあり、地区によって事情が異なる。 |
| 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 全ての福祉センターにおいて介護予防の体操や、高齢者や障害者を対象とした講座やボランティア講座、センターサロンなどを開催し、地域福祉の推進することができた。</p> <p>【実施できなかったこと】 サロン活動の支援や協力者の発掘、男性のサロンや講座の参加促進、ニーズを把握していく必要がある。</p> |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

B



| | |
|------------|--|
| 事業の今後の取組方針 | 福祉センターのあり方についての職員間の共通理解と福祉センターの機能や地域の特性を把握したうえで検証していく。 |
|------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|---|---------------------------|--|--|---|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (1) | 市民活動拠点施設の活用 | | | | |
| 施策の目的 | 市民活動の拠点となる市民活動センターや地区公民館、福祉センター等の公共施設が、市民活動団体や地域団体にとってより一層利用しやすいものになるよう施設の管理・運営に努めること | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 34 | 町内公民館建設費等補助金 | | | | |
| | | 地域の住民が文化的活動、教育的活動、その他組織的な活動を行なうための町内公民館の建設・改修する場合に要件に応じて費用の一部を補助する。 | | | | |
| D 実績 | | 公民館建設2件、公民館改修延べ25件に対し事業費の一部を補助した。 | 公民館改修延べ28件に対し事業費の一部を補助した。 | 公民館建設(1件)及び改修(29件)計30件に対し、事業費の一部を補助した。 補助額計:10,144,000円 | 公民館改修計27件に対し、事業費の一部を補助した。 補助額計:7,677,000円 | 公民館建設1件、公民館改修計28件に対し、事業費の一部を補助した。 補助額計:34,207,000円 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|---|
| A 中間総評 | 要望どおりの補助を実施できている。 一方で、市街化や緑地の減少等による自然環境の変化や、老朽化した施設の増加により、補助対象とされていない改修事業に関する相談が増えている。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 利用者が活動しやすい、安心して利用できる施設となるよう支援することができた。 【実施できなかったこと】 補助金交付要綱の読み込み、内容の精度向上に向けた検討 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 引き続き、町内公民館を町内会にとって活動しやすい活動拠点とするため、町内公民館の建設や改修に必要な費用の一部を補助する。 また、より精度の高い補助金交付体制の確立を目指す。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|-----|---|--|---|---|---------------------------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (2) | 市民活動センターの機能の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | さまざまな市民活動をサポートする拠点施設である市民活動センターが有する情報受発信機能や相談・コーディネート機能、人材・団体育成機能の充実を図ること | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 35 | 市民活動活性化事業(情報受発信)【再掲】 | 28 | 29 | | |
| D 実績 | | 市民交流センター メールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、交流センターまつり:1回、わくわく交流会:1回 | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、交流センターまつり:1回、わくわく交流会:1回、交流センターまつり:1回、わくわく交流会:1回 | 市民交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、フェイスブックを活用した情報の受発信:随時、交流センター自主事業での交流会事業:1回(安城市で活躍する人の交流会)、社協主催マッチング交流会への参加 | 交流センターメールマガジン:12回、情報誌(わくわく通信):4回、フェイスブックを活用した情報の受発信:随時、交流センター自主事業での交流会事業:1回(安城市で活躍する人の交流会)、市民活動交流会2017in安城、社協主催マッチング交流会への参加 | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.4 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| A 中間総評 | ・毎月1回のメールマガジンや3か月に1回の情報誌(わくわく通信)の発行などを継続的に行うことができた。 ・27年度より、団体同士の出会いの場となる交流会事業を市民交流センター自主事業として積極的に実施しており、その中で団体同士のマッチングも生まれつつある状況である。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.4 |
| 施策の進捗度 | 【実施できなかったこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.4 |

B



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ・交流の場を増やすことを目的とした事業を、継続して実施するとともに、内容については、交流会事業が効果的なものとなるよう、サポータークラブをはじめとした市民活動団体と協働して企画する。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|-----|---|-------------------------|--|--|----------------------------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (2) | 市民活動センターの機能の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | さまざまな市民活動をサポートする拠点施設である市民活動センターが有する情報受発信機能や相談・コーディネート機能、人材・団体育成機能の充実を図ること | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | | |
| P 事業 | 36 | 市民活動活性化事業(市民活動団体支援)【再掲】 | | 28 29 | | |
| D 実績 | | 相談件数:70件 マッチング件数:39件 | 相談件数:73件 マッチング件数:29件 | 相談件数:96件 マッチング件数:40件 【相談事例】 ・事業(講座)の際にふるまいとして提供するお菓子を授産施設から調達したいので、紹介して欲しい。 ・ホームページのデザインをおしゃれに変更したいが、詳しい人を教えて欲しい。 ・多くの人たちに自分たちの活動を紹介する場所を教えて欲しい | 相談件数:97件 マッチング件数:27件 その他にも交流センター館内掲示に、団体の活動PRのスペースや助成金情報を掲載し、情報発信を行うようにした。 | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.14 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | ・相談件数については、順調に増加しているが、マッチング件数が25年度からの比較で最も少ない件数となってしまった。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.14 |
| C 5年間の総評 | 【実施できなかったこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.14 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ・マッチング率や件数を増加させるために、例えば「相談・マッチングコーナー」を館内掲示として設けて状況を見える化して取り組む。 ・交流会事業の事後フォローを充実させ、マッチング状況を見える化していく。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|---|---|---|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 市民活動センターの機能の充実 | | |
| 施策の目的 | | さまざまな市民活動をサポートする拠点施設である市民活動センターが有する情報受発信機能や相談・コーディネート機能、人材・団体育成機能の充実を図ること | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| | | 28 | 29 | |
| P 事業 | 37 | 市民活動活性化事業(人材・団体育成事業) | | |
| D 実績 | | スキルアップ講座及びわくわくサロンを開催し、日ごろから市民活動をしている団体や市民活動に関心がある市民に学ぶ機会を提供する。 | スキルアップ講座:3回 ・保険を学ぼう(参加者13人) ・情報サイト活用講座(参加者24人) ・パソコンde画像編集講座(参加者7人) わくわくサロン:29回 ・お絵かき教室(参加者延べ415人) | スキルアップ講座:3回 ・もっと活用!情報サイト ・SNSの利用の仕方初級編 ・パソコンで名刺作り わくわくサロン:12回 |
| | | | | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.16 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|-------------|---|
| C 中間総評 | 継続してスキルアップ講座開催で來ている。特に27年と28年は、パソコンやSNSなど、登録団体が比較的苦手にしているであろう課題を解決するための講座を企画・開催し、参加者の中からは、市民活動情報サイトを積極的に活用する団体や、フェイスブックページを個人で開設して、所属する団体の情報を掲載したりする受講生がいた。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.16 |
| C 施策の進捗度 | 【実施できなかつたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.16 |

B



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ・わくわくサロンを本来の交流会事業として位置付けに再整理し、事業の活性化を図る。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|-------------------------------|---|---|--|-------------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (2) | 市民活動センターの機能の充実 | | | | |
| 施策の目的 | さまざまな市民活動をサポートする拠点施設である市民活動センターが有する情報受発信機能や相談・コーディネート機能、人材・団体育成機能の充実を図ること | | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 38 | 「団体登録申請書・活動報告書の書き方セミナー」開催事業 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 登録申請書や活動報告書の書き方を教えるセミナーを開催する。 | | | | |
| | | 未実施 | 活動報告書の書式改正と合わせて平成27年3月19・22日に市民交流センターにてセミナーを開催。 | 活動報告書に関して、27年度は任意の様式での提出を可としたため、セミナーは開催せず。個別の相談に対しでは、センタースタッフが対応している。 | 必要に応じて開催を検討 市民交流センタースタッフによる個別の対応は継続実施 | H29年度は実施せず。 |



第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|-------------|---|----|
| C 中間総評 | ・平成26年度に活動報告書の書き方セミナーを開催した。また、アンケートのニーズより、団体登録の更新作業の省力化を図り、交流センタースタッフの日常業務の中での対応で十分間に合うようになった。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・活動報告書の様式を任意としたことで、セミナーを開催せずに登録団体が活動報告書を作成できるようになった。 【実施できなかったこと】 ・特になし。 | |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | 達成 |



| | |
|-----------------|-----------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 取組予定なし。スタッフによる個別対応は継続 |
|-----------------|-----------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|----------------------------------|--|--|--|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 39 | 市民活動補助事業(試行) | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 市民活動を財政面から支援する制度を創設するにあたって、その制度の実効性等を検証し、本格的な制度の創設に役立てるため、補助事業を試行する。 | | | | |
| | | 平成25年度事業:6団体6事業、補助金総額511,000円 | 平成26年度事業:9団体9事業 補助金総額942,000円 | 平成27年度事業:8団体8事業 補助金総額963,000円 <i>592,000</i> | 平成28年度事業:6団体6事業 補助金総額908,000円 <i>815,000</i> | 平成29年度事業:6団体6事業 補助金総額1,000,000円 <i>522,000</i> |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|--|----|
| 中間総評 | 平成25年度より補助事業を試行し、本格運用できた。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 ・平成25年度から補助制度を創設し、その後も継続して補助を行うことができた。</p> <p>【実施できなかったこと】 ・特になし。</p> | |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | 達成 |



| | |
|-----------------|-----------------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 団体にとってより活用しやすい補助制度となるよう検討する必要がある。 |
|-----------------|-----------------------------------|

6月中修

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|---|---|---|---|----|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 40 | ふれあい補償制度事業 | | | | |
| | 事業内容 | 主に町内会活動を中心とした地域活動や青少年活動など、一定の要件を満たしたグループの社会活動中のケガや事故に対して補償する。 | | | | |
| D 実績 | 平成25年度:申請88件、支払い82件、支払金額732,105円 | 平成26年度:申請82件、支払い61件、支払金額753,096円 | 補償請求時に必要な書類等がわかりやすくなるよう、必要書類を一覧表示するなど、わかりやすいチラシとなるよう内容の見直しを行った。 平成27年度:申請83件、支払い72件、支払金額1,110,036円 | 平成28年度 申請件数:86件 支払件数:81件 支払金額:618,000円 利用者にとってわかりやすいものとなるよう、様式等を変更する準備を進めた。 | 平成29年度 申請件数:72件 支払件数:78件 支払金額:1,647,844円 保障の対象を整理し、また、利用者にとってわかりやすい様式になるよう変更した。 | |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | | |
|-------------|---|---|
| C 中間総評 | 子ども会や町内会のみでなく、広く市民活動団体まで対象範囲を拡大して実施できた。請求者にとって分かりやすい制度となるよう、様式や補償対象の見直しのための準備を行った。 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・団体が安心して活動できるよう継続して制度を運用できた。 ・利用者にとって分かりやすい制度となるよう、様式を変更した。 【実施できなかったこと】 ・大半を子ども会の利用が占めており、市民活動団体の利用が少なかった。 | |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |

| | |
|-----------------|--------------------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 市民活動団体に向けて、メルマガや市民活動情報サイトを活用して啓発を行う。 |
|-----------------|--------------------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|-----|---|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 基本方針 | 3. | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 41 | 協働のまちづくり基金制度の調査・研究事業 | | | | |
| D 実績 | | 協働のまちづくりを資金面から支援するための原資となる基金制度の創設に向けて、法制度や運用手法などの面から調査・研究を進め、制度のあり方について検討を行う。 | | | | |
| | | 平成25年4月1日基金設立 | 平成25年4月1日基金設立 | 平成25年4月1日基金設立 | 平成25年4月1日基金設立 | 平成25年4月1日基金設立 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| 中間総評 | 平成25年4月1日に基金設立完了した。 |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金を実施して継続的に運用できた。 |
| 施策の進捗度 | <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くが地元企業からの寄付に頼っている現状があり、市民個人からの寄付がほとんどなかった。 |



| | |
|-----------------|---------------------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 更なる市民協働推進のため、市民活動補助金以外の運用についても検討していく。 |
|-----------------|---------------------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|---|---|--|--|----|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 42 | 基金設置事業 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 市民協働のまちづくりを資金面から支援するための原資となる基金の設置と市民への基金設置の周知活動を行う。 | | | | |
| | | 平成25年4月1日基金設立 平成25年4月1日～12月31日までの寄附金総額237, 612円(9件)、基金積立額502, 000円(マッチングギフト方式) | 平成25年4月1日基金設立 平成26年1月1日～12月31日までの寄附金総額429, 063円(12件)、基金積立額904, 000円(マッチングギフト方式) 交流センターまつり、福祉まつり、地域福祉マッチング交流会、まちかど講座の際に基金のPRを実施。 市民協働課及び市民交流センターにおいては、常設で基金PRのための「のぼり旗」を掲出している。 | 平成26年1月1日～12月31日までの実績 寄付金額:286, 222円 寄付者数:延べ10人 交流センター及び市民協働課前に常設で募金箱とのぼり旗設置しPRを行った。 市民交流センターまつりにおいては、缶バッジを配布しながら、基金のPRを実施した。 平成27年1月1日～12月31日までの寄附金総額302, 676円(11件)、基金積立額656, 000円(マッチングギフト方式) | 平成28年1月1日～12月31日までの実績 寄付金額:2, 242, 961円 寄付者数:13人 交流センター及び市民協働課前に常設で募金箱とのぼり旗設置しPRを行った。 市民交流センターまつりにおいては、缶バッジを配布しながら、基金のPRを実施した。 6月1日号の広報あんじょうにてPRを実施した。 基金積立額4, 517, 000円 | |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-----------------|--|
| C 中間総評 | ・平成25年度の基金設立から、今年度上半期まで延べ38人、1, 150, 630円の寄付金をいただいた。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・平成25年に基金設置以降、継続して基金を運用・周知することができた。 【実施できなかったこと】 ・多くが地元企業からの寄付に頼っている現状があり、市民個人からの寄付がほとんどなかった。 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |
| A 事業の今後の取組方針 | ・広く寄付を集めるために広報あんじょうだけでなく、フェイスブック等を活用して周知を行う。 ・人が多く集まるイベントで、積極的に基金のPRを実施する必要がある。 |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|-----|---|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 43 | 基金を利用した市民活動補助事業 | | | | |
| D 実績 | | 基金を原資とした市民活動補助制度を創設し、その運用を図る。 | | | | |
| | | 平成25年度事業:6団体6事業、 補助金総額511,000円 | 平成26年度事業:9団体9事業 補助金総額942,000円 | 平成27年度事業:8団体8事業 補助金総額963,000円 | 平成28年度事業:6団体6事業 補助金総額908,000円 | 平成29年度事業:6団体6事業 補助金総額:1,000,000円 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|---|---|
| A 中間総評 | ・28年度実施した市民向けアンケート調査によると、市民活動センターまたは社協ボラセンに登録のある市民活動団体の市民活動補助金の認知度は56.7%であり、28年度までで延べ29団体が助成を受け、活動を実施した。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金を活用した補助制度が継続的に運用できた。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 | |
| 施策の進捗度 | <p>・達成:(施策自体の達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |



| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ・H28年度実施したアンケート調査等で、補助制度の使いづらさを指摘する声もあったため、団体にとって使いやすい制度となるよう検討する。 ・交流センターのメルマガ、季刊誌、フェイスブックや広報あんじょう等、今使えるツールを効果的に組み合わせて啓発を行う。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|--|--|---|---|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | |
| 施策の目的 | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 44 協働事業提案制度事業 | | | 28 29 |
| D 実績 | 『行政提示型事業』 平成25年度:「協働事業事例集作成事業(担当課:市民協働課)」をテーマとし、「あんねっと」と協働で作成した。 平成26年度:「環境教育・学習推進事業(担当課:環境首都推進課)」「多文化共生推進事業(担当課:市民協働課)」の二つをテーマとし、「多文化共生推進事業」については「国際交流はなのはき会」より応募があり、事業を協働で実施した。 平成27年度:「第2次健康新たまごプロジェクト」をテーマとし、「多文化共生推進事業」については「国際交流はなのはき会」より応募があり採択された。 『市民提案型事業』 平成25年度:5事業実施 平成26年度:8事業採択 | 『行政提示型事業』 平成26年度:「環境教育・学習推進事業(担当課:環境首都推進課)」「多文化共生推進事業(担当課:市民協働課)」の二つをテーマとし、「多文化共生推進事業」については「国際交流はなのはき会」より応募があり、事業を協働で実施した。 平成27年度:「第2次健康新たまごプロジェクト」をテーマとし、「多文化共生推進事業」については「国際交流はなのはき会」より応募があり採択された。 『市民提案型事業』 平成26年度:8事業実施 平成27年度:6事業採択 | 『行政提示型事業』 平成27年度:「第2次健康日本20安城計画推進事業(担当課:健康推進課)」の事業が以下とのおり協働で実施された。 ①「サークル「船々」」 【事業名】こころ元気に「音楽と講演」【団体による自己評価】心の健康に关心を持っている人々に対して、情報を提供できた。 ②「Arjoきらめきた~い」 【事業名】安城ご当地体操でババもママもプラス10【団体による自己評価】原劳名の推奨する「プラス10」について、多くの方に知ってもらうことができた。 平成27年度:「第2次健康新たまごプロジェクト」以上のテーマについて、少しずつ見学者が体操に参加するようになった。 平成28年度:①「さわやかマナー推進事業(担当課:環境都市推進課)」②「ティーンズ(中学生・高校生)向け読書推進事業(担当課:中央図書館)」以上のテーマについて、それぞれ「NPO法人フィアの会」と「ヒップボファミリークラブ安城」の2団体から応募があり、採択された。 『市民提案型事業』 平成27年度:6事業実施 平成28年度:4事業採択 | 『行政提示型事業』 平成28年度:①「さわやかマナー推進事業(担当課:環境都市推進課)」の事業が「NPO法人フィアの会」により実施された。 ②「ティーンズ(中学生・高校生)向け読書推進事業(担当課:中央図書館)」の事業が「ヒップボファミリークラブ安城」により実施された。 平成29年度:①「郷土料理普及事業(担当課:農務課)」②「外国人住民への防災教育の促進事業(担当課:市民協働課)」以上のテーマについて、それぞれ「NPO法人人の環ネットあんじょう」、「おやこ日本語サロン」により実施された。 平成30年度:①「男女共同参画の啓発事業(担当課:市民協働課)」②「発達障害のある子どものスポーツ・文化活動推進事業(担当課:子育て支援課)」以上のテーマについて、それぞれ「ワインズネット安城」、「さんかく21・安城」、「イワガミ」、「特定非営利活動法人5-CHA」の4団体から申請があり、採択された。 『市民提案型事業』 平成28年度:4事業実施 平成29年度:3事業採択 ※平成29年度事業については、追加募集を行う予定⇒追加募集の結果、「市民提案型事業」1事業 |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-----------------|--|
| C 中間総評 | ・25年度の市民活動補助制度創設に併せて行政提示型・市民提案型事業を創設し、運用することが出来た。 ・29年度採択事業までで、「行政提示型事業」については延べ8つのテーマが提示され、8事業が実施された。「市民提案型事業」については、延べ26事業が採択されている。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・市民活動補助制度の中に「市民提案型」、「行政提示型」2つの制度を設け、補助制度を適用することができた。 【実施できなかったこと】 ・特になし。 |
| B 施策の進捗度 | ・達成: (施策自体の達成) ・A: 順調に進捗した ・B: 納期順調であったが、改善の余地がある ・C: 遅れている(大幅な改善が必要) |
| A 事業の今後の取組方針 | 継続して制度を運用していくとともに、さらなる協働を推進するために、制度の中に「協働事業提案型」を加えていく。 |

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|---|-------------------------------|---|---|--|----------------------------|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 45 | 「団体登録申請書・活動報告書の書き方セミナー」開催事業 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 登録申請書や活動報告書の書き方を教えるセミナーを開催する。 | | | | |
| | | 未実施 | 活動報告書の書式改正と合わせて平成27年3月19・22日に市民交流センターにてセミナーを開催。 | 活動報告書に関して、27年度は任意の様式での提出を可としたため、セミナーは開催せず。個別の相談に対しては、センタースタッフが対応している。 | 必要に応じて開催を検討 市民交流センタースタッフによる個別の対応は継続実施 | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No.38 |

第1次計画(H25～H29)の総括



| | | |
|-------------|---|----|
| C 中間総評 | ・平成26年度に活動報告書の書き方セミナーを開催した。また、アンケートのニーズより、団体登録の更新作業の省力化を図り、交流センタースタッフの日常業務の中での対応で十分間に合うようになった。 【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No.38 | |
| C 5年間の総評 | 【実施できなかったこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元：No.38 | |
| A 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | 達成 |



| | |
|-----------------|------|
| A 事業の今後の取組方針 | 特に無し |
|-----------------|------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|--|---|---|--|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 46 | あんじょうボランティア・市民活動団体助成事業 | | | | |
| | 事業内容 | 共同募金を財源として市内で活動するボランティア・市民活動団体を対象に「はじめの一歩助成」と「ステップアップ助成」の2種類の助成を行う。 | | | | |
| D 実績 | | 市民活動補助金の設立に伴い平成25年度をもって事業を終了した。25年度は「はじめの一歩助成」3団体、「ステップアップ助成」3団体へ助成を行った。 | 従来の助成事業にかわって、「ボランティア活動備品購入費等助成」と「ボランティア活動活性化応援助成」を新たに設置し、備品は4件、活動は5件の助成を行った。 | 「ボランティア活動備品購入費等助成」では、安城市民やろMYプログラム実行隊をはじめ4団体に備品購入の助成を行った。「ボランティア活動活性化応援助成」では、「サークル*くるくる(車いすの取り扱いDVDの作成)」をはじめ4団体に対して、活動助成を行った。 | 「ボランティア活動備品購入費等助成」は、あんじょうまちの学校をはじめ2団体に備品購入の助成を行った。「ボランティア活動活性化応援助成」では、「手話サークルゆびきりげんまん」をはじめ6団体に対して、活動助成を行った。 | 「ボランティア活動備品購入費等助成」は、ゆうき少年団をはじめ2団体に備品購入の助成を行った。「ボランティア活動活性化応援助成」では、井畠花の道サークルをはじめ5団体に対して、活動助成を行った。 |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|---|--------|---|
| | 中間総評 | 登録のボランティア団体に対し、必要に応じて助成金を提供できた。助成金申請数及び金額は伸び悩んでいる。類似の助成金が複数あり、活動資金獲得を目指す団体に対しても、必要な助成金情報を提供できる。 |
| C | 5年間の総評 | 【実施できたこと】 登録のボランティア団体に対し、必要に応じて助成金を提供できた。共同募金を財源とした助成金をはじめ、民間団体が実施する助成金の情報を提供することができた。 【実施できなかったこと】 助成金の情報に関して、一般市民（未登録の団体）に向けての情報発信ができなかった。 |
| | 施策の進捗度 | ・達成：(施策自体の達成) ・A：順調に進捗した ・B：概ね順調であったが、改善の余地がある ・C：遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|--|
| A 事業の今後の取組方針 | ボランティア団体と関わる中でステップアップが必要な場合は、社会福祉協議会が実施する助成金や他団体が実施する助成金の活用を想定し、相談を行う。 |
|-----------------|--|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|-------|--|---|-----|--|--|----|
| 基本方針 | 3 | 市民活動がしやすい環境整備と活動の支援 | 担当課 | 社会福祉協議会 | | |
| 基本施策 | (3) | 市民活動への財政的支援等の充実 | | | | |
| 施策の目的 | | 財政面や活動基盤強化のための支援を通じて、公益的な市民活動の自立的な発展と活性化を図る | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 事業 | 47 | 地域福祉活動助成事業 | | | | |
| 事業内容 | 町内会単位で設置されている町内福祉委員会による地域福祉活動を支援するため、少額の助成を行う。 | | | | | |
| 実績 | 前年度と同様に、社会福祉協議会一般会費を財源として、各地区社協ごとに助成要綱を定め、町内福祉委員会への活動助成を行った。 | 同左 | 同左 | 昨年度までの社会福祉協議会一般会費を財源とした地区社協の助成事業のほかに、市への寄付金を財源とした新たな補助事業が昨年度の途中から始まっている。 | 社会福祉協議会一般会費を財源とした地域福祉活動助成事業のほかに、基金を財源とした町内福祉委員会活動推進特別事業、安城市高齢者地域生活支援等実施団体活動支援事業による助成が増え、サロン活動が活発化した。 | |



第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|--------|--|
| 中間総評 | 助成金が増えることにより、新たな活動や活動の拡充に向けての呼び水になり、活動の活性化につながっている。 |
| 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 助成金が増えたことにより、新たな活動や活動の拡充に向けての呼び水になり、活動の活性化につながっている。助成金が増えたことから申請が煩雑になったが、助成金間の申請書類の共通化を図ることにより簡略化を図り、より助成を受けやすくなれた。</p> <p>【実施できなかったこと】 特になし。</p> |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 事業の今後の取組方針 | 基金が平成31年度で効力を失うため、その後の助成金の整理が必要である。 |
|------------|-------------------------------------|

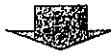
第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | |
|---------|--|---|-----------|---|---|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり | 担当課 | 市民協働課 | |
| 基本施策 | (1) | 市民協働の推進連携体制の構築 | | | |
| 施策の目的 | 本計画に位置づけた各種施策や関係各課で実施している協働関連事業の実施状況と成果・課題を把握し、計画の適正な進行管理に努め、協働のまちづくりを計画的に推進すること | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | |
| P 事業 | 48 | 協働推進員の配置 | | | |
| | 事業内容 | 関係機関における協働推進と連絡調整を図るため、関係各課に協働推進員を配置する。 | | | |
| D 実績 | 未実施 | 先進地視察として能美市・逗子市を視察した。 | 全庁配置は実施せず | 第2次計画策定のため、府内に作業部会を設置し、府内において協働に関係の深い各課の職員を作業部会委員として任命した。 | 第2次計画策定のため、府内に作業部会を設置し、府内において協働に関係の深い各課の職員を作業部会委員として任命した。 |



第1次計画(H25～H29)の総括

| | |
|-------------|--|
| C 中間総評 | 府内一律に推進員を配置することが、真の協働を推進することにはつながないと判断したため、設置していなかったが、第2次計画策定にあたり、全府的に協働を推進するため、まずは協働に関係の深い各課の職員を作業部会委員として任命し、各課における協働事業の洗い出しを進める準備をした。今後については、作業部会委員が各課における協働推進員のような役割を担っていくものと考える。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・先進地視察の実施 ・第2次計画策定のため、府内に作業部会を設置し、協働に関係の深い各課職員を作業部会員として任命した。 【実施できなかつたこと】 ・協働推進員の設置 |
| B 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 第2次計画策定にあたって、市民協働に関係のある各課より協働事業をを提出していただいており、その事業の進捗管理をしていくことで、各課における協働の精度を高めていくとともに、他の事業へも協働の視点が広がっていくように仕向けて行く。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

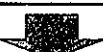
| | | | | | | | |
|-----------|--|---------------------|-----|---------------------|--|--|--|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり | 担当課 | 市民協働課・生涯学習課・社会福祉協議会 | | | |
| 基本施策 | (1) | 市民協働の推進連携体制の構築 | | | | | |
| 施策の目的 | 本計画に位置づけた各種施策や関係各課で実施している協働関連事業の実施状況と成果・課題を把握し、計画の適正な進行管理に努め、協働のまちづくりを計画的に推進すること | | | | | | |
| 年度 | No | 26 | 26 | 27 | | | |
| | | 28 | 29 | | | | |
| P 事業 | 49 | 市民活動担当者の交流事業 | | | | | |
| C 事業内容 | 市民活動を支援している市民協働課と生涯学習課(青少年の家も含む)と社会福祉協議会の各担当者との情報交換や交流の機会をつくる。 | | | | | | |
| D 実績 | <p>「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」を1回開催し、関係機関の担当者が、顔を合わせ、情報交換を行った。</p> <p>「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」を1回開催し、関係機関の担当者が、顔を合わせ、情報共有について可能な範囲共有することで合意を得た。</p> <p>「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」を1回開催し、関係機関の担当者が顔を合わせ、講師や登録団体の情報をについて可能な範囲で共有するための資料を交換した。</p> <p>「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」を1回開催し、関係機関の担当者が顔を合わせ、各施設での取組等の情報共有を行った。</p> | | | | | | |
| | H29年度は実施せず | | | | | | |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|--------|---|
| 中間総評 | <ul style="list-style-type: none"> 各担当者が交流し、情報交換を行う機会を設けるため、「ボランティア・市民活動団体等関係機関連絡会」を設置し、毎年1回ずつ開催することが出来た。その中で、利用者満足の向上を目指して、社協と市民活動センターの団体登録手続きを見直し、結果として社協から市民活動センターへの登録が20団体増えた。 27年度においては、各課の保有する講師情報を共有することが出来た。 <p>【実施できしたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報共有の機会を定期的に設け、団体登録情報を共有することで、市民活動センターと社協ボランティアセンターの団体登録が同時申請することができるようになった。 |
| 5年間の総評 | <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ボランティアセンターや青少年の家との情報共有が進まなかつた。 |
| 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> 達成:(施策自体の達成) A:順調に進捗した B:概ね順調であったが、改善の余地がある C:遅れている(大幅な改善が必要) |

B



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | 市民協働を推進するため、リニューアルされる生涯学習ボランティアセンターの動き等の情報を共有できるよう、生涯学習課に働きかけていく。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | | |
|---------|------|--|-------|---|---|----|--|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり 担当課 | 市民協働課 | | | | |
| 基本施策 | (1) | 市民協働の推進連携体制の構築 | | | | | |
| 施策の目的 | | 本計画に位置づけた各種施策や関係各課で実施している協働関連事業の実施状況と成果・課題を把握し、計画の適正な進行管理に努め、協働のまちづくりを計画的に推進すること | | | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | |
| P 事業 | 50 | 安城市市民協働推進会議の設置 | | | | | |
| | 事業内容 | 公募市民や市民活動団体、学識経験者などで組織する会議を設置し、協働推進計画の進捗状況の評価や市が協働を推進させるための施策へ助言を行う。 | | | | | |
| D 実績 | | 4回開催 | 3回開催 | 第1回(7月)開催 議題 (1)安城市市民協働推進計画進捗状況(27年度分)について (2)平成29年度市民活動補助金について (3)第2次安城市市民協働推進計画の策定について 第2回(11月)開催 議題 (1)市民協働推進新計画概要説明 (2)第2次計画の策定について (3)平成29年度市民活動補助金について 第3回(1月)開催 「平成29年度市民活動補助金本審査」として開催 第4回(3月)開催 (1)第2次計画の骨子案について (2)推進事業の方向性やアイデアについて (3)平成29年度市民活動補助金(追加募集)について ※事業の進捗状況を把握するため、フォーマットを新たに作成した。 | 第1回(7月)開催 議題 (1)第2次市民協働推進計画策定の進捗状況について (2)市民協働推進計画進捗状況(平成28年度分)について (3)平成30年度市民活動補助金の募集について (4)平成29年度市民活動補助金(追加募集分)本審査 第2回(10月)開催 議題 第2次安城市市民協働推進計画(案)について (1)第1章から第3章 (2)第4章(基本方針1~4) (3)第4章(基本方針5) (4)第5章 第3回(11月)開催 議題 第2次安城市市民協働推進計画(案)について (1)前回の審議会からの修正点 (2)パブリックコメントの実施について 第4回(1月)開催 「平成29年度市民活動補助金本審査」として開催 第5回(2月)開催 議題 (1)パブリックコメントの意見及びその回答について (2)第2次市民協働推進計画(原案)の承認について (3)第2次市民協働推進計画の答申(案)について | | |

第1次計画(H25~H29)の総括

| | |
|-------------|---|
| C 中間総評 | ・市民協働推進計画の進捗確認と市民活動補助金の審査を主な議題として開催している。 実績報告と進捗を評価することが難しかったため、28年度にフォーマットを新たに作成した。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・計画の進捗管理及び市民活動補助金の審査のため、継続して審議会を開催することができた。 【実施できなかったこと】 ・特になし。 |
| A 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |

A

| | |
|-----------------|-----------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 継続して審議会を開催していく。 |
|-----------------|-----------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|--|---|---|----------|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 中間支援組織の設立支援 | | |
| 施策の目的 | 市と市民(市民活動団体)や市民活動団体同士の間に立ち、協働の支援やコーディネートを行うための担い手を育成し、市民協働の推進を図ること | | | |
| 年度 | No | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 51 | 協働サポータークラブ設立支援事業 | 28 | 29 |
| D 実績 | 未実施 | 「まちづくり人養成講座 中級編」受講者のうち、要件を満たし、加入申請のあった19人をメンバーとする協働サポータークラブの設立する準備を行った。(要綱等の整備) | 平成27年11月18日に19名のサポーターを中心に行なった。「安城市市民協働サポータークラブ」が発足した。 | 完了 完了 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | | |
|-------------|---|-----------|
| C 中間総評 | まちづくり人養成講座 (H25, 26開催分) 修了生のうち、希望者を協働サポーターとして任命し、19名で協働サポータークラブが設立された。以降は任意団体として市や市民交流センターと協働で活動している。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できしたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり人養成講座修了生を中心に協働サポータークラブが発足した。 <p>【実施できなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 | |
| A 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | 達成 |



| | |
|-----------------|--------------------------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 市や指定管理者と協働し、市民協働の推進につながる取り組みを継続していく。 |
|-----------------|--------------------------------------|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|--|-----|-------|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 中間支援組織の設立支援 | | |
| 施策の目的 | | 市と市民(市民活動団体)や市民活動団体同士の間に立ち、協働の支援やコーディネートを行うための担い手を育成し、市民協働の推進を図ること | | |
| 年度 | No | 26 | 26 | 27 |
| P 事業 | 52 | 市民協働コーディネーターの連携・交流事業 | | 28 |
| D 実績 | | 未実施 | 未実施 | 29 |

第1次計画(H25～H29)の総括

↓

| | |
|-----------------|---|
| 中間総評 | ・コーディネーターは存在しないが、協働サポーターがコーディネーター的な役割を担っており、市や市民交流センターとの協働事業の企画・運営や定例会を通じて、能力の維持・向上を図ったり、情報交換を実施している。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できたこと】 ・ファシリテーションの実践の場となる機会を継続的に提供した。 【実施できなかったこと】 ・特になし。 |
| 施策の進捗度 | ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) |
| B | |
| A 事業の今後の取組方針 | 協働サポーターの一層の能力の向上を図るため、活動の場を提供するなどの支援を行う。 第2次計画の推進にあたっては、サポータークラブとの協働をより一層推進していく。 |

↓

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | |
|---------|-----|--|-------------------------------|---|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり | 担当課 | 市民協働課 |
| 基本施策 | (2) | 中間支援組織の設立支援 | | |
| 施策の目的 | | 市と市民(市民活動団体)や市民活動団体同士の間に立ち、協働の支援やコーディネートを行うための担い手を育成し、市民協働の推進を図ること | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 |
| P 事業 | 53 | 市民協働コーディネーター育成事業【再掲】 | | |
| 事業内容 | | 初級・中級・上級編の講座により、安城市内及び市役所内で活躍する市民協働コーディネーターを育成する。 | | |
| D 実績 | | 初級編講座を実施し、42名が受講。 | 25年度の初級編に引き続いで中級編を実施し、29名が受講。 | 27年度は、まちづくり人養成講座(初級編)を開催し、34名が受講した。 26年度に実施したまちづくり人養成講座中級編の修了者のうち、希望者を協働サポートとして任命。サポートを中心任意団体「安城市市民協働サポートクラブ」を発足。「わくわく交流会」や「安城市で活躍する人の交流会」でのファシリテーションを実践した。 協働コーディネーターの育成は未実施。協働サポートクラブ及び市民交流センタースタッフがコーディネーター的役割を担い、活動している。 27年度まちづくり人養成講座修了生を中心に、まちづくり人養成講座(中級編)を実施した。 |
| | | | | ※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.19 |

第1次計画(H25~H29)の総括



| | |
|-------------|--|
| A 中間総評 | ・まちづくり人養成講座として、初級編、中級編までは開催しているが、上級編については未開催 ・現在は交流センターのスタッフ及びまちづくり人養成講座26年度中級編修了者のうち、希望者を将来のコーディネーター候補となる、協働サポートとして任命した。 |
| C 5年間の総評 | 【実施できしたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元: No. 19 |
| 施策の進捗度 | 【実施できなかったこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元: No. 19 |

B



| | |
|-----------------|---|
| A 事業の今後の取組方針 | ・現在活動している協働サポートの活躍の場(市や交流センターとの協働事業の企画・運営やファシリテーションやコーディネーションスキルを磨く場)を確保し、コーディネーターとしての技量を高めてもらうよう取組む。 |
|-----------------|---|

第1次市民協働推進計画 施策状況調査シート

| | | | | | | |
|---------|------|--|------------------------------------|---|--|---|
| 基本方針 | 4 | 市民協働の担い手の育成 | 担当課 | 市民協働課 | | |
| 基本施策 | (3) | 協働事業の評価・報告・公表 | | | | |
| 施策の目的 | | 市民協働推進会議やわくわく交流会等の開催機会などを通じて評価結果等を報告・公表します。 | | | | |
| 年度 | No. | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| P 事業 | 54 | 市民活動団体交流及び活動発表会事業(わくわく交流会事業)【再掲】 | | | | |
| D 実績 | 事業内容 | 団体がお互いの活動を紹介し、まちづくり活動を行う市民や団体同士が交流し、お互いに知り合い、共に学び合いながら、それぞれの特徴を活かして、相互連携・仲間づくりにつなげていく交流会を開催する。 | | | | |
| | | 1回開催(平成26年2月22日、参加団体:6団体、参加者数:52名) | 1回開催(平成27年2月22日、参加団体:9団体、参加者数:62名) | <p>1回開催(平成28年2月13日、参加団体:8団体、参加者数:57名) 【内容】 第1部として開催した平成27年度市民活動補助金交付事業の成果報告を受け、参加者全員で、「活動成果をあげるために、みんなでできること」をテーマにワークショップを実施した。 【参加者の声】 ・他団体との交流が図れてよい機会だった。 ・協働相手を探すことことができた。 ・情報交換ができる時間が欲しかった。</p> | <p>・市民活動補助金成果報告会は29年2月11日開催予定 ・交流センター自主事業「市民活動交流会2017in安城」を29年2月26日開催予定</p> | <p>※【再掲】につき、記入省略 再掲元:No.20</p> |

第1次計画(H25～H29)の総括

| | | |
|-------------|--|---|
| C 中間総評 | 27年度より、わくわく交流会だけでなく、安城市で活躍する人たちの交流会を開催するなど、団体同士がお互いに知り合うことを目的とした交流会を実施し、参加者アンケートからも「協働する相手を探すことができた」等好評をいただいている。 | |
| C 5年間の総評 | <p>【実施できたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元: No. 20</p> <p>【実施できなかつたこと】 ※【再掲】につき、記入省略 再掲元: No. 20</p> | |
| A 施策の進捗度 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成:(施策自体の達成) ・A:順調に進捗した ・B:概ね順調であったが、改善の余地がある ・C:遅れている(大幅な改善が必要) | B |

| | |
|-----------------|----------------------|
| A 事業の今後の取組方針 | 市民活動団体に特化した交流会を開催する。 |
|-----------------|----------------------|